

応用生態工学会 第 24 回総会 資料

開催日時：2020年9月17日（木）～30日（水）

資料目次

資料－1	一般経過報告
資料－2	会員状況報告
資料－3	総会・理事会・幹事会・委員会の開催状況報告
資料－4	会誌「応用生態工学」編集状況報告
資料－5	2019 年度（令和 1 年度）事業報告
資料－6	第 5 次中期計画の策定延期報告
資料－7	2019 年度（令和 1 年度）決算報告
資料－8	2019 年度（令和 1 年度）監査報告
資料－9	（参考）2020 年度（令和 2 年度）事業実施状況・収支見込み
資料－10	災害調査引当資産の補充
資料－11	2021 年度（令和 3 年度）事業計画案
資料－12	2021 年度（令和 3 年度）予算案

<添付資料>

- ・役員名簿（第 12 期）
- ・規約、規約細則

応用生態工学会 第 24 回総会 議事次第

1 報告事項

1－1 2019 年度（令和 1 年度）事業報告

（1）一般経過報告（資料－1）	1
（2）会員状況報告（資料－2）	4
（3）総会・理事会・幹事会・委員会の開催状況報告（資料－3）	9
（4）会誌「応用生態工学」編集状況報告（資料－4）	14
（5）2019 年度（令和 1 年度）事業報告（資料－5）	16
（6）第 5 次中期計画の策定延期報告（資料－6）	21

2 審議事項

2－1 第 1 号議案 2019 年度（令和 1 年度）決算・監査報告

（1）2019 年度（令和 1 年度）決算報告（資料－7）	22
（2）2019 年度（令和 1 年度）監査報告（資料－8）	31
（参考）2020 年度（令和 2 年度）事業実施状況・収支見込み（資料－9）	32

2－2 第 2 号議案 災害調査引当資産の補充（資料－10）

2－3 第 3 号議案 2021 年度（令和 3 年度）事業計画案（資料－11）

2－4 第 4 号議案 2021 年度（令和 3 年度）予算案（資料－12）

1 報告事項

1-1 2019 年度（令和 1 年度）事業報告

資料-1

（1）一般経過報告

2019 年度（令和 1 年度：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）の一般経過と、2020 年度（令和 2 年度：2020 年 4 月 1 日～）の一般経過及び今後の予定を報告する。

2019 年度（令和 1 年度）一般経過

4. 1	2019 年度（平成 31 年度）開始
4. 2	第 1 回第 12 期次期役員募集・推薦委員会（麴町：応用生態工学会事務所）
4. 5	応用生態工学会 第 23 回大会第 2 回実行委員会（広島大学 東広島キャンパス）
4. 19～20	＜共催・応用生態工学会札幌＞若手の会「若手のつどい勉強会 2019」 （北海道大学工学部、豊平川）
4 月	国際交流委員会（メール会議），2019 年度海外学会等への派遣者決定
5. 1	2019 年度（令和元年度）開始
5. 18～19	テキスト刊行委員会 第 2 回中小河川テキスト会議（九州大学西新プラザ）
5. 23	第 81 回幹事会（麴町：応用生態工学会事務所）
5. 28	ニュースレター 84 号発行
5. 29	会誌編集幹事会（麴町：応用生態工学会事務所）
5. 31	＜共催・会誌編集委員会＞応用生態工学会札幌 「第 1 回北海道の応用生態工学 掲載論文の解説と展望 その 1」 ～「小さな自然再生」と「きっと役立つ省力化のモニタリング技術」～ （札幌エルザプラザ）
6. 1～6. 30	第 12 期次期役員候補者募集
6. 28	第 98 回理事会（麴町：弘済会館）
7. 16	応用生態工学会 第 23 回大会第 3 回実行委員会（復建調査設計(株)別館）
7. 18	第 2 回第 12 期次期役員募集・推薦委員会（麴町：応用生態工学会事務所）
7. 26	2018 年度決算監事監査（麴町：応用生態工学会事務所）
7. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 22-1 発行
8. 2	第 82 回幹事会（麴町：応用生態工学会事務所）
8. 7	ニュースレター 85 号発行
8. 8～9	テキスト刊行委員会 第 3 回中小河川テキスト会議 （(国研) 土木研究所 自然共生研究センター）
8. 19～26	第 99 回理事会（メール会議）
8. 31	応用生態工学会仙台 『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト～東日本大震災後の砂浜環境について～』 （仙台湾南部海岸）
9. 12	応用生態工学会 第 23 回大会第 4 回実行委員会（広島大学 東広島キャンパス）
9. 13～14	応用生態工学会長野 第 18 回現地ワークショップ in 長野 （信州大学繊維学部）
9. 27～30	応用生態工学会 第 23 回大会（広島大学東広島キャンパス） 9 月 27 日（金）：自由集会、ポスターコアタイム、各委員会 9 月 28 日（土）：口頭発表、自由集会、若手の会ランチミーティング、懇親会 9 月 29 日（日）：午前：役員会（現）、第 23 回総会、役員会（新）、表彰式 午後：公開シンポジウム 9 月 30 日（月）：エクスカーショント（温井ダム、広島西部山系砂防施設、汽水域干潟）

9. 27	会誌編集委員会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 27	第 1 回普及・連携委員会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 28	テキスト刊行委員会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 28	将来構想委員会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 29	第 83 回幹事会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 29	第 100 回理事会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 29	第 23 回総会	(広島大学東広島キャンパス)
9. 29	第 84 回幹事会・第 101 回理事会合同会議	(広島大学東広島キャンパス)
10. 30	<後援・近畿地方整備局>令和元年度多自然川づくり近畿地方ブロック担当者会議 (大阪合同庁舎第 1 号館 第 1 別館)	
11. 1	第 24 回札幌大会第 1 回実行委員会	(北海道大学工学部)
11. 1	応用生態工学会札幌 第 2 回北海道の応用生態工学 全国大会の発表を札幌でも その 1	(北海道大学工学部)
11. 7	<共催・河川生態学術研究会>第 22 回河川生態学術研究発表会 (東京大学農学部弥生講堂・一条ホール)	
11. 7	災害対応委員会	
11. 8	応用生態工学会金沢 第 4 回北信越事例発表会 in 石川	(IT ビジネスプラザ武蔵)
11. 8～15	第 102 回理事会 (メール会議)	
11. 12	応用生態工学会富山 「氾濫原テキスト」勉強会	(新川学びの森天神山交流館)
11. 14	第 2 回普及・連携委員会	(日向市中央公民館)
11. 14～15	第 11 回全国フィールドシンポジウム in 耳川 「いい耳川をめざして！流域一体となった総合土砂管理による河川生態系の再生 ～世界初！3 ダム連携通砂事業の現場を見る～」 (日向市中央公民館・耳川)	
11. 26	応用生態工学会名古屋 フィールドシンポジウム in 自然共生センター (自然共生センター、国営木曽三川公園 138 タワーパーク)	
11. 29	応用生態工学会福井 勉強会「魚道整備による地域の川づくり	(福井県国際交流館)
12. 6	連続セミナー 第 8 回「環境の未来を考え・語る会」	((一財)水源地環境センター)
12. 10	応用生態工学会新潟 勉強会 「生態系ネットワークと地域再生」	(新潟大学駅南キャンパス)
12. 23	第 85 回幹事会	(麴町：応用生態工学会事務所)
12. 24～27	第 103 回理事会 (メール会議)	
12. 27	ニュースレター 86 号発行	
1. 9	第 1 回台風 19 号災害調査団打合せ	(CTI 会議室)
2. 7	2019 年度第 1 回事務局改善委員会	(麴町：応用生態工学会事務所)
2. 21	ニュースレター 87 号発行	
2. 21～3. 31	2020 年度海外学会等への派遣員の募集	
2. 25	第 104 回理事会	(麴町：弘済会館)
3. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 22-2 発行	
3. 31	2019 年度 (令和元年度) 終了	

2020 年度（令和 2 年度）行事の経過と今後の予定

4. 1	2020 年度（令和 2 年度）開始
4. 3～6	国際交流委員会（メール会議），2020年度海外学会等への派遣者 ⇒ 募集中止
4. 17	第 24 回札幌大会第 2 回実行委員会 ⇒ 延期
4. 17	応用生態工学会札幌 「氾濫原テキスト」勉強会⇒ 延期
5. 14～20	第 105 回理事会（メール会議）
5. 21	第 24 回札幌大会の 1 年延期をホームページに掲載、会員に一斉配信
5. 21	ニュースレター88 号発行
5. 28～6. 5	情報サービス委員会（メール会議）
6. 2～12	第 86 回幹事会（メール会議）
6. 18～25	情報サービス委員会（メール会議）
6. 23	編集幹事会（Web 開催）
7. 29～31	2019 年度決算監事監査（書面検査）
7. 30～8. 5	第 106 回理事会（メール会議）
8. 6	応用生態工学会仙台 フィールド調査令和元年度報告会（Web 開催） 『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト～東日本大震災後の海岸堤防について～』
8. 6	編集幹事会（Web 開催）
8. 12	応用生態工学会東京 2020web 研究発表会 第 1 回準備会（Web 開催）
8. 17	第 24 回札幌大会第 2 回実行委員会（web 開催）
8. 18～25	情報サービス委員会（メール会議）
8. 21～27	第 87 回幹事会（メール会議）
8. 31～9. 7	第 107 回理事会（メール会議）
9. 14	国際交流委員会（Web 開催）
9. 17～30	第 24 回総会（メール会議）
9. 17	ニュースレター89 号発行
9 月	会誌「応用生態工学」Vol. 23-1 発行
9. 24～28	応用生態工学会 第 24 回札幌大会 ⇒ 1 年延期
9. 25	テキスト刊行委員会（Web 開催）
10. 30	＜後援・近畿地方整備局＞令和 2 年度多自然川づくり近畿地方ブロック担当者会議 (Web 開催)
11 月下～ 12 月中旬	2020 年度 Web 研究発表会開催（2 日間）
12. 10	応用生態工学会札幌 「氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会 (対面とオンライン併用) (札幌教育文化会館講堂)
12 月	幹事会
12 月	ニュースレター90 号発行
1 月	会誌「応用生態工学」Vol. 23-2 発行
2 月	理事会
2 月	ニュースレター91 号発行
2 月～3 月	2021 年度海外学会等への派遣員の募集
3. 31	2020 年度（令和 2 年度）終了

（２）会員状況報告（2020 年 7 月 10 日現在）

会員状況は、2020 年度収支見込み、2021 年度事業計画案、2021 年度予算案に関連しますので、次のとおり報告します。

（１）個人会員

・個人会員は、前年度末現在の会員数に新規入会者数と退会者数の差分を加えて今年度の会員数を算出している。

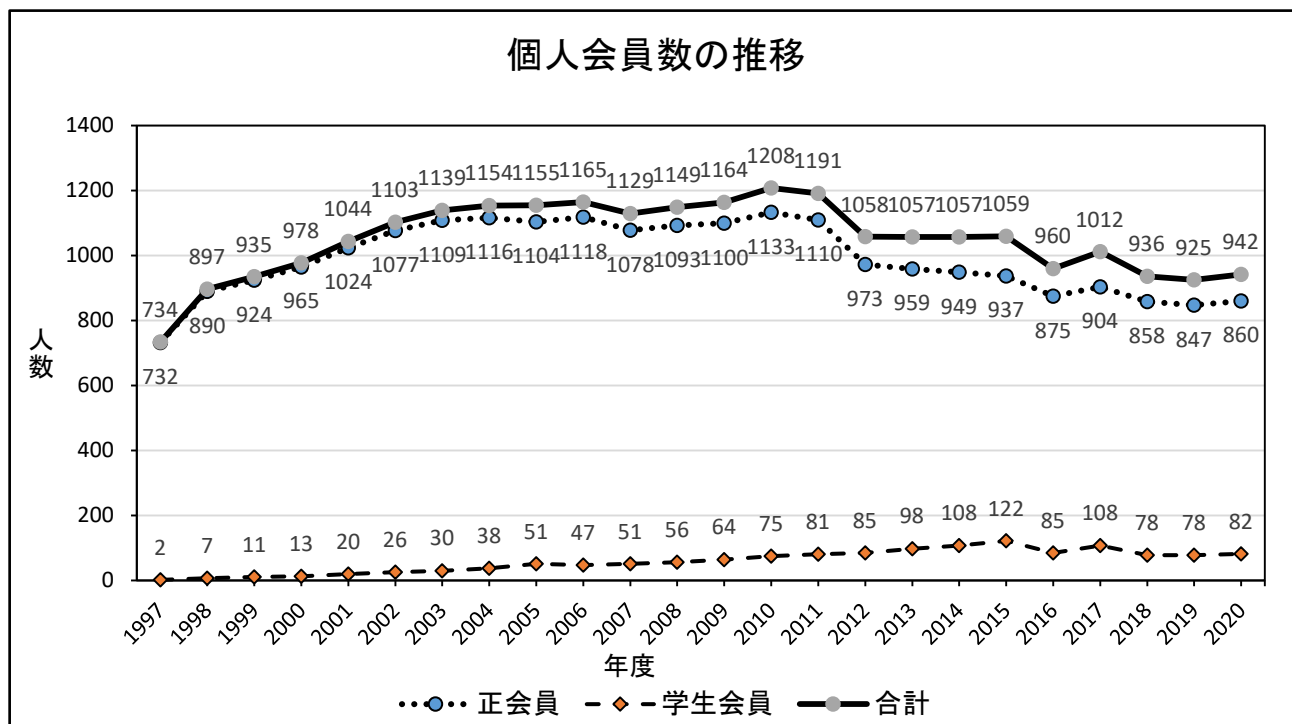
・退会者数には、退会を申し出た者と本人からの退会の申し出はないが会費の長期滞納、配達不能による会誌の返送、メール配信不能等の会員に対して退会処理を行った者が含まれる。これまで退会処理は、2012 年度末、2016 年度末、2018 年度末の 3 回行っており、その都度、会員数が大きく減少することとなるが、この処置により会員数と会費収入の乖離が是正される。なお、会員の中には、大会時の研究発表のために当該年度のみ入会する場合が少なからず見受けられることに留意する必要がある。

・個人会員については、会費収入と整合する人数が重要であり、そのような観点から実態のある会員数を把握していくことが必要である。

・学会に対する社会的な関心・評価という点では、新規入会者の推移が一つの指標になると考えられる。

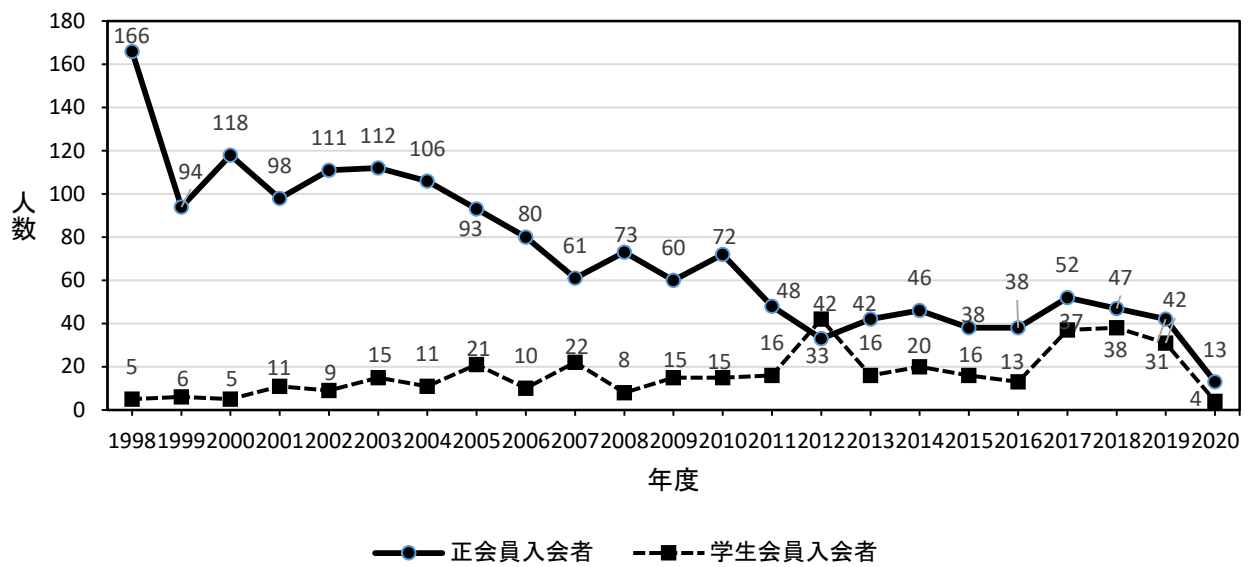
注；2020 年度の入会者は 4 月 1 日から 7 月 10 日までの入会者数である。

個人会員数の変遷	年度	正会員	学生会員	合計
発足時	1997	735	2	737
最多時	2010	1,133	75	1,208
最少時	2019	847	78	925
現 在	2020	860	82	942

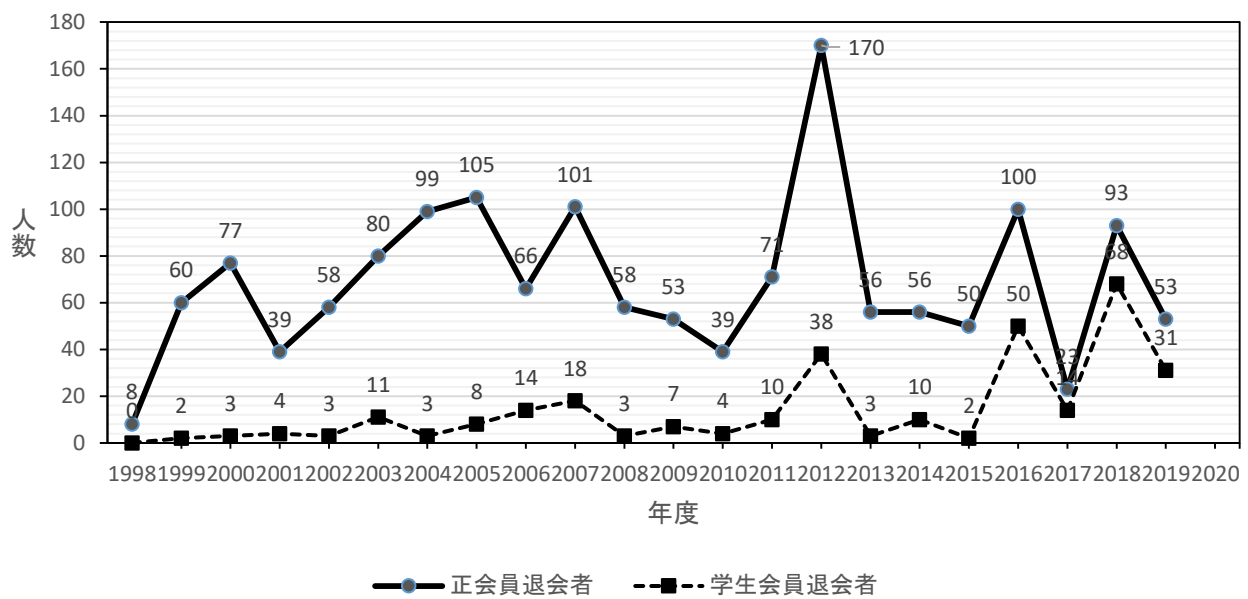


注：2012 年度、2016 年度、2018 年度の会員数の減少は、会員の退会申し出に加えて退会処理を行ったことによる。

個人会員入会者の推移



個人会員退会者の推移



	年度別入会者			年度別退会者			在籍会員(年度)		
	正会員	学生	小計	正会員	学生	小計	正会員	学生	小計
1997	735	2	737	3		3	732	2	734
1998	166	5	171	8		8	890	7	897
1999	94	6	100	60	2	62	924	11	935
2000	118	5	123	77	3	80	965	13	978
2001	98	11	109	39	4	43	1024	20	1044
2002	111	9	120	58	3	61	1077	26	1103
2003	112	15	127	80	11	91	1109	30	1139
2004	106	11	117	99	3	102	1116	38	1154
2005	93	21	114	105	8	113	1104	51	1155
2006	80	10	90	66	14	80	1118	47	1165
2007	61	22	83	101	18	119	1078	51	1129
2008	73	8	81	58	3	61	1093	56	1149
2009	60	15	75	53	7	60	1100	64	1164
2010	72	15	87	39	4	43	1133	75	1208
2011	48	16	64	71	10	81	1110	81	1191
2012	33	42	75	170	38	208	973	85	1058
2013	42	16	58	56	3	59	959	98	1057
2014	46	20	66	56	10	66	949	108	1057
2015	38	16	54	50	2	52	937	122	1059
2016	38	13	51	100	50	150	875	85	960
2017	52	37	89	23	14	37	904	108	1012
2018	47	38	85	93	68	161	858	78	936
2019	42	31	73	53	31	84	847	78	925
2020	13	4	17				860	82	942
	2375	388	2763	1515	306	1821			

注；正会員数には名誉会員を含む。

(2) LEE 購読者数

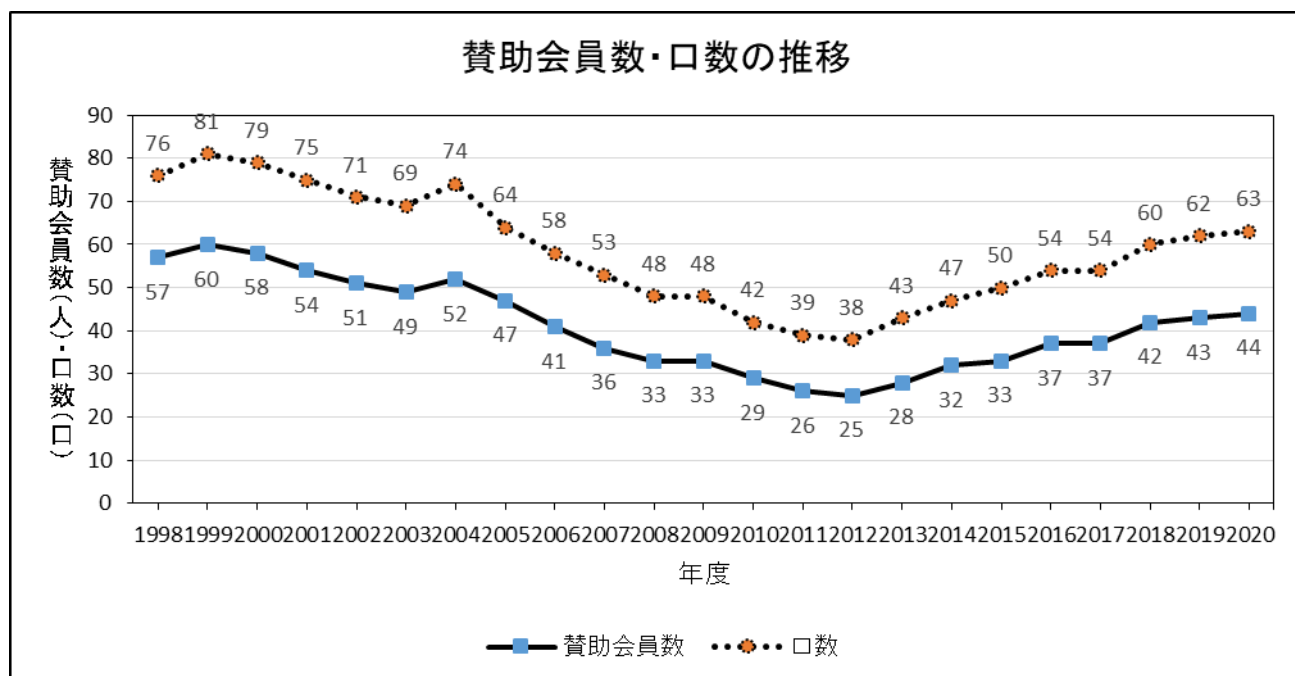
正会員・名誉会員	69 名
学生会員	4 名
賛助会員	1 名
計	74 名

(3) 賛助会員

- ・賛助会員については、設立年（1997 年）の入会は 53 法人を数えたが、その後はおおむね連続して減少傾向を続け、2012 年度末には 25 法人 38 口まで減少した。
- ・その後、賛助会員サービスの向上に向けた取り組み等、関係者の努力の結果、2013 年度以降は増加に転じ、現在では 43 法人 62 口まで回復した。

賛助会員の変遷

	年度	法人数	口数
発足時	1997	53	72
最多時	1999	60	81
最少時	2012	25	38
現 在	2020	44	63



賛助会員数・口数の推移

賛助会員数・口数の推移		
年度	賛助会員数	口数
1997	53	72
1998	57	76
1999	60	81
2000	58	79
2001	54	75
2002	51	71
2003	49	69
2004	52	74
2005	47	64
2006	41	58
2007	36	53
2008	33	48
2009	33	48
2010	29	42
2011	26	39
2012	25	38
2013	28	43
2014	32	47
2015	33	50
2016	37	54
2017	37	54
2018	42	60
2019	43	62
2020	44	63

賛助会員名簿

番号	名称	口数
1	株式会社ニュージェック	2
2	公益財団法人リバーフロント研究所	2
3	株式会社東京建設コンサルタント	1
4	清水建設株式会社	1
5	八千代エンジニアリング株式会社	2
6	パシフィックコンサルタンツ株式会社	3
7	株式会社建設環境研究所	3
8	西日本技術開発株式会社	1
9	株式会社建設技術研究所	3
10	一般財団法人国土技術研究センター	1
11	一般財団法人水源地環境センター	3
12	いであ株式会社	2
13	株式会社日水コン	1
14	株式会社北海道技術コンサルタント	1
15	日本工営株式会社	2
16	応用地質株式会社	3
17	株式会社ドーコン	2
18	中電技術コンサルタント株式会社	1
19	公益財団法人河川財団	1
20	株式会社エイト日本技術開発	1
21	国際航業株式会社	1
22	株式会社開発工営社	1
23	大成建設株式会社	1
24	北電総合設計株式会社	1
25	一般財団法人日本ダム協会	2
26	一般社団法人流域水管理研究所	1
27	株式会社修成建設コンサルタント	1
28	株式会社アクアテルス	1
29	一般社団法人北陸地域づくり協会	1
30	一般社団法人四国クリエイト協会	1
31	一般社団法人東北地域づくり協会	2
32	電源開発株式会社	1
33	株式会社地域環境計画	1
34	株式会社大林組	1
35	一般財団法人北海道河川財団	2
36	一般財団法人石狩川振興財団	1
37	鹿島建設株式会社	1
38	独立行政法人水資源機構	1
39	株式会社生物技研	1
40	日本振興株式会社	1
41	一般財団法人日本建設情報総合センター	1
42	一般財団法人河川情報センター	1
43	株式会社復建技術コンサルタント	1
44	株式会社北開水工コンサルタント	1
	44法人	63口

注：太字は、2019 年度以降に新規入会した者、既会員で増口した者を示す。

(3) 総会・理事会・幹事会・委員会の開催状況報告

1) 総会

- ・第23回総会 2019年9月29日(日) 10:10～11:10 広島大学東広島キャンパス
理学研究科E棟 E102

報告事項：2018年度(平成30年度)事業報告

第4次中期計画の事後評価

第12期幹事選出報告

審議事項：2018年度(平成30年度)決算・監査報告

(参考) 2019年度(令和1年度)事業実施状況・収支見込み

2020年度(令和2年度)事業計画案

2020年度(令和2年度)予算案

第12期役員選出

第12期幹事長選出

名誉会員の推戴

2) 理事会

- ・第98回 2019年6月28日(金) 15:00～17:00 弘済会館
2019年度海外学会等への派遣員の選考結果報告、第23回大会の計画、第12期次期役員募集・推薦委員会報告／第12期次期役員候補募集の状況、次回ELRの協議状況、応用生態工学20年の成果を踏まえた学会規約「第3条 目的」の取り扱い、第4次中期計画事後評価、2018年度(平成30年度)決算報告、大会参加費の徴収、学会の一般社団法人化、平成29年7月九州北部豪雨調査団報告書
- ・第99回(メール会議) 2019年8月19日(月)～26日(月)
第12期次期役員募集・推薦委員会報告、会員状況報告、2019年度(令和元年度)収支見込み、第12期幹事長候補の推薦・幹事の選出、2020年度(令和2年度)事業計画案、2020年度(令和2年度)予算案、名誉会員の推戴
- ・第100回 2019年9月29日(日) 9:35～10:00 広島大学理学研究科E棟 E210
理事―幹事担当制の廃止について、来年の第24回大会の開催計画
- ・第101回合同 2019年9月29日(日) 11:10～11:30 広島大学理学研究科E棟 E210
副幹事長の任命、会長職務代行者の指名
- ・第102回(メール会議) 2019年11月8日(金)～15日(金)
台風19号による災害に対する調査団の派遣について
- ・第103回(メール会議) 2019年12月24日(火)～27日(金)
台風19号災害調査団の派遣に係る災害調査費について
- ・第104回 2020年2月25日(火) 13:00～15:00 弘済会館
第24回大会(札幌大会)の開催案内、各委員会の次期委員の委嘱、台風19号災害調査団の状況、ICLEEの動向、ELR2021大会の開催、研究発表会表彰運営委員会(仮称)の設置について、事務局改善委員会の名称変更について
- ・第105回(メール会議) 2020年5月14日(木)～20日(水)

応用生態工学会第 24 回札幌大会の延期及び ELR2021 大会の延期について

- ・第 106 回（メール会議） 2020 年 7 月 30 日（木）～8 月 5 日（水）

第 12 期幹事の選出について

- ・第 107 回（メール会議） 2020 年 8 月 31 日（月）～9 月 7 日（月）

第 5 次中期計画の策定延期について、第 24 回総会の開催について、2019 年度（令和元年度）決算報告、2019 年度（令和元年度）監査報告、2020 年度（令和 2 年度）事業実施状況・収支見込み、2021 年度（令和 3 年度）事業計画案、2021 年度（令和 3 年度）予算案、2020 年度研究発表会 Web 開催について、来年に延期された札幌大会の開催準備について

3) 幹事会

- ・第 81 回 2019 年 5 月 23 日（木） 13:00～15:00 応用生態工学会事務所（麹町）

2019 年度海外学会等への派遣員の選考結果報告、第 23 回大会の計画、第 12 期次期役員募集・推薦委員会報告／第 12 期次期役員候補募集の状況、次回 ELR の協議状況、応用生態工学 20 年の成果を踏まえた学会規約「第 3 条 目的」の取り扱い、第 4 次中期計画事後評価、2018 年度（平成 30 年度）決算報告、学会の一般社団法人化

- ・第 82 回 2019 年 8 月 2 日（金） 15:00～16:40 応用生態工学会事務所（麹町）

第 23 回広島大会開催案内、第 12 期次期役員募集・推薦委員会報告、会員状況報告、2019 年度（令和元年度）収支見込み、2020 年度（令和 2 年度）事業計画案、2020 年度（令和 2 年度）予算案、名誉会員の推戴

- ・第 83 回 2019 年 9 月 29 日（金） 9:00～9:35 広島大学理学研究科 E 棟 E210

理事—幹事担当制の廃止について、来年の第 24 回大会の開催計画

- ・第 84 回合同 2019 年 9 月 29 日（日） 11:10～11:30 広島大学理学研究科 E 棟 E210

副幹事長の推薦

- ・第 85 回 2019 年 12 月 23 日（月） 13:00～15:00 応用生態工学会事務所（麹町）

役員改選に伴う委員会担当理事の選任、第 24 回大会（札幌大会）の準備状況報告、ICLEE の動向、第 5 次中期計画について、ELR2021 大会の開催

- ・第 86 回（メール会議） 2020 年 6 月 2 日（火）～12 日（金）

第 24 回札幌大会延期の決定及び ELR2021 大会延期の方針について、2020 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告、各委員会の次期委員の委嘱、2019 年度決算報告

- ・第 87 回（メール会議） 2020 年 8 月 21 日（金）～27 日（木）

第 5 次中期計画の策定延期について、第 24 回総会の開催について、2020 年度（令和 2 年度）事業実施状況・収支見込み、2021 年度（令和 3 年度）事業計画案、2021 年度（令和 3 年度）予算案、2020 年度研究発表会 Web 開催について、来年に延期された札幌大会の開催準備について

4) 委員会

会誌編集委員会

- ・編集幹事会 2019 年 5 月 29 日（水） 13:30～15:30 応用生態工学会事務所（麹町）

22 巻 2 号以降の会誌の編集、投稿促進策の検討、投稿・査読の効率化、刊行規程・投稿規程・校閲規程の全面見直し、第 5 次中期計画における会誌に関する記載

- ・第 1 回 2019 年 9 月 27 日（金） 12:30～13:30 広島大学生物圏科学研究科 C 棟 C316

投稿テンプレート、査読プロセス、掲示板の整備、投稿規程の変更、第 5 次中期計画における会

誌に関する記載

- ・編集幹事会（Web 開催） 2020 年 6 月 23 日（火） 13:30～15:30

23 巻 2 号以降の特集企画、投稿促進策の検討、JSTAGE での先行公開、著者用テンプレート、担当編集委員用掲示板の運用、修正投稿の期限、担当編集委員の公表、採択時の最終原稿の送信、第 5 次中期計画、投稿規定の改訂

- ・編集幹事会（Web 開催） 2020 年 8 月 6 日（木） 15:00～

会誌投稿規程の見直し

普及・連携委員会

- ・第 1 回 2019 年 9 月 27 日（金）12:30～14:30 広島大学生物圏科学研究科 C 棟 C316

2019 年度活動報告及び 2020 年度活動予定、イベント助成金の申請状況、テキスト刊行委員会との連携、2019 年度全国フィールドシンポジウム in 耳川の参加申込状況、2020 年度全国フィールドシンポジウムのテーマ・開催地

- ・第 2 回 2019 年 11 月 14 日（木）12:15～13:15 日向市中央公民館

2020 年度全国フィールドシンポジウムの開催地・テーマ・時期、河道内氾濫原テキスト勉強会（富山）の開催報告と今後の開催予定、2020 年度の普及・連携委員会の開催時期

国際交流委員会

- ・メール会議 2019 年 2 月 7 日（木）～5 月 8 日（水）

国際シンポジウムと広島大会との共催の企画

- ・メール会議 2019 年 4 月 8 日（月）～22 日（月）

2019 年度海外学会等への派遣者の審議・決定

- ・第 23 回広島大会公開シンポジウム「ここまで進んだ生態系観測技術の最前線」 13:00～17:00

広島大学理学研究科 E 棟 E102

第 23 回広島大会と共催で国際シンポジウム開催

- ・メール会議 2020 年 4 月 3 日（金）～4 月 6 日（月）

2020 年度海外学会等への派遣者の募集期間内に応募者がなかったが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて 2020 年度は募集期間の延長は行わず派遣の中止決定

- ・Web 開催 2020 年 9 月 14 日（月）

2021 年度国際シンポジウムの企画、活動報告他

情報サービス委員会

- ・メール会議 2020 年 5 月 28 日（木）～6 月 5 日（木）

メーリングリスト名称の変更

- ・メール会議 2020 年 6 月 18 日（木）～25 日（木）

Web 会議システム導入方針

- ・メール会議 2020 年 8 月 18 日（火）～25 日（火）

Web 会議システム機材の導入

将来構想委員会

- ・第 1 回 2019 年 9 月 28 日（土） 12:00～13:00 広島大学生物圏科学研究科 C 棟

第 5 次中期計画骨子について

テキスト刊行委員会

- ・第 2 回中小河川テキスト会議 2019 年 5 月 18 日（土）15:00～18:00 ～19 日（日）10:00～15:00

九州大学西新プラザ

章の構成確認・見せ方

- ・第3回中小河川テキスト会議 2019年8月8日(木)～9日(金)
(国研) 土木研究所自然共生研究センター
テキストの目的・対象・各章の内容の決定
- ・第23回広島大会自由集会 2019年9月27日(土) 15:00～17:00 生物圏科学研究科C棟 C315
中小河川テキスト刊行に向けて
- ・第23回広島大会懇親会 2019年9月27日(土) 18:00～20:00 広島大学西第2福利会館
河口委員長よりテキスト第1号「河道内氾濫原の保全と再生」の発刊報告
- ・応用生態工学会富山 テキスト勉強会 2019年11月12日(火) 新川学びの森天神山交流館
委員2名を講師として派遣
- ・Web開催 2020年9月25日(金)
氾濫原テキストの活用促進、次期テキストの刊行等

災害対応委員会

- ・第1回 2019年11月7日(木) 12:30～13:05 東京大学弥生講堂控室
台風19号による災害に対する調査団派遣について
- ・第1回調査団会議 2020年1月9日(木) 13:30～16:50 CTI会議室
調査団派遣河川の選定、調査団の編成、調査団派遣による成果の方針、今後の予定

事務局改善ワーキンググループ(改称:企画運営委員会)

- ・第1回 2020年2月7日(金) 13:00～14:30 応用生態工学会事務所(麴町)
会誌掲載論文に対する評価付け、学会の一般社団法人化、地域活動の拡充、個人会員増に向けた着目点、委員会の名称変更、賛助会員向けセミナーの今後の運営、会員データベースのシステム更新

次期役員募集・推薦委員会

- ・第1回 2019年4月2日(火) 15:00～17:00 応用生態工学会事務所(麴町)
役員選出の手順・スケジュールの確認、次期役員候補募集公示文の検討
- ・第2回 2019年7月18日(木) 14:30～16:20 応用生態工学会事務所(麴町)
役員候補募集期間内に届け出のあった会長候補1名、副会長候補3名、理事候補11名、監事候補2名の17名全員について、候補として受け付けることを決定。理事候補については定数上限15名との差4名について委員会として推薦

第23回大会(広島大会)実行委員会

- ・第2回 2019年4月5日(金) 15:00～17:00 広島大学東広島キャンパス
事務局との打合せ結果の報告、第22回東京大会の反省点・引継メモの確認、各部会の検討状況の報告、今後のスケジュール確認
- ・第3回 2019年7月16日(木) 14:00～18:50 復建調査設計(株)別館
庶務、プログラム・自由集会、会場、会員サービス・表彰、公開シンポジウム、エクスカーション・懇親会の各部会の検討状況の報告
- ・第4回 2019年9月12日(木) 13:00～ 広島大学東広島キャンパス
各部会からの進捗状況の報告・確認

第24回大会(札幌大会)実行委員会

- ・第1回 2019年11月1日（金） 9：00～11：30 北海道大学工学部
実行委員会の今後のスケジュール、公開シンポジウムのテーマ・河川基金助成申請、役割分担
- ・第2回（Web 開催） 2020年8月17日（月） 17:30～18:30
大会の日程、会場、開催形態（通常開催、通常開催＋会場内（外）オンライン開催、オンライン開催）

(４) 会誌「応用生態工学」編集状況報告（18巻以降）

1) 会誌発行状況（2020年6月10日現在）

※今回から J-Stage 公開日を記載

巻・号	発行日 (J-Stage 公開日)	掲載論文数	特集等
18巻1号	2015年6月28日 (2015年9月4日)	6 (原2, 事1, 総2, 意1, 書1)	特集「河床の見方をめぐる新たな展開」
18巻2号	2015年12月28日 (2016年2月1日)	11 (原5, 事4, ト2)	
19巻1号	2016年7月28日 (2016年9月5日)	12 (原3, 短3, 事3, レ2, ト1)	
19巻2号	2017年1月28日 (2017年4月3日)	12 (原2, 総3, 事5, ト1, 書1)	
20巻1号	2017年9月28日 (2018年1月15日)	20 (原2, 事7, レ1, ト1, 意6, 他3)	特集「河川生態を分かり易く伝える」 学会20周年記念特集
20巻2号	2018年2月28日 (2018年5月11日)	8 (原2, 事2, 短1, レ3)	
21巻1号	2018年7月28日 (2018年9月10日)	9 (原2, 事3, 短2, レ1, ト1)	
21巻2号	2019年1月28日 (2019年4月10日)	10 (原6, 事2, 短1, レ1)	
22巻1号	2019年7月28日 (2019年9月10日)	10 (原2, 事4, 短1, 総1, レ1, 意1)	
22巻2号	2020年3月28日 (2020年4月25日)	7 (原1, 事3, 短2, 意1)	
23巻1号	2020年8月 日 (2020年9月 日)	18 (原2, 事8, 短1, レ1, ト1, 意2, 特4)	特集「2017九州北部豪雨災害」ミニ特集「霞ヶ浦の生態系サービス評価」 ※土倉事務所で初校作成中
23巻2号	2021年2月 日 (2021年3月 日)		特集「ICT技術の活用」 特集「水田生態系」

※原：原著、短：短報、総：総説、事：事例研究、レ：レポート、ト：トピックス、意：意見、書：書評

※2018年5月からJ-Stage搭載後ただちに公開

2) 論文投稿状況と平均査読日数^{※1}（2013年以降、2020年6月10日現在）

年	総数	受理数	不採択数 ^{※2}	校閲中数	採択率	英文論文数	平均査読日数
2013	13	8	5		61.5	1	75
2014	31	16	15		51.6	0	64
2015	27	19	8		70.4	0	54
2016	26	18	8		69.2	0	43
2017	38	30	8		78.9	0	48
2018	27	20	7		74.1	0	41
2019	36	24	7	5	77.4	0	40 ^{※3}
2020	17	6	3	8	66.7	0	32

※1 投稿後の初回判定までの期間。特集号等の特殊なケース（投稿後ただちに受理）を含まず

※2 取り下げ（要修正の判定後に修正投稿辞退）含む

※3 特集を除く（特集を含めると44日）

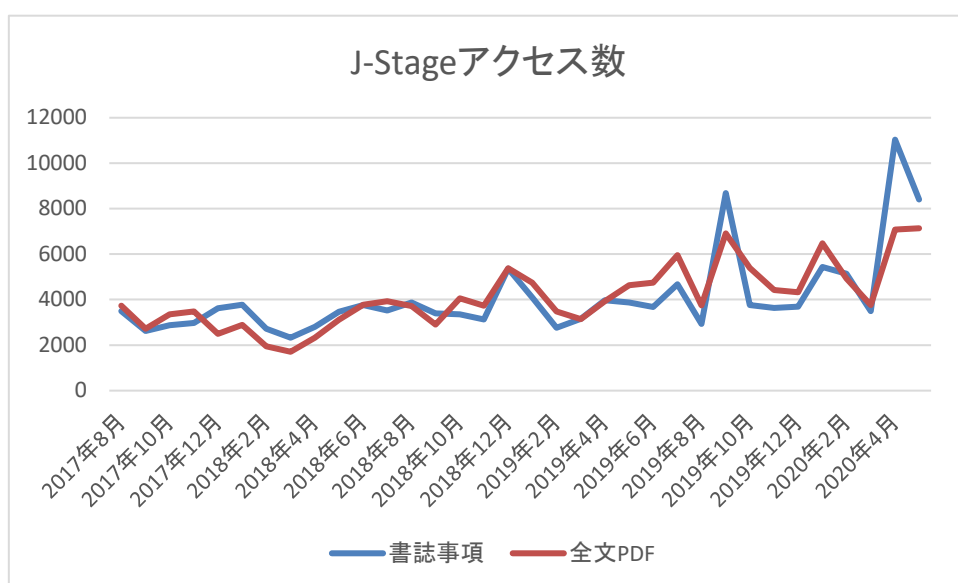
3) JSTAGE アクセスレポート

2018年5月のJSTAGEでの論文の完全公開前後のアクセス状況は以下のとおりである。2018年5月以降にアクセス数が増加。

(2017年8月～2020年5月)

	2017年 8月	2017年 9月	2017年 10月	2017年 11月	2017年 12月	2018年 1月
書誌事項	3486	2615	2874	2973	3625	3775
全文PDF	3737	2716	3347	3477	2492	2882
	2018年 2月	2018年 3月	2018年 4月	2018年 5月	2018年 6月	2018年 7月
書誌事項	2716	2328	2807	3460	3755	3518
全文PDF	1945	1708	2321	3112	3771	3933
	2018年 8月	2018年 9月	2018年 10月	2018年 11月	2018年 12月	2019年 1月
書誌事項	3878	3390	3353	3124	5362	4091
全文PDF	3720	2896	4052	3733	5374	4738
	2019年 2月	2019年 3月	2019年 4月	2019年 5月	2019年 6月	2019年 7月
書誌事項	2760	3148	3973	3875	3672	4676
全文PDF	3476	3144	3928	4631	4740	5951
	2019年 8月	2019年 9月	2019年 10月	2019年 11月	2019年 12月	2020年 1月
書誌事項	2926	8678	3764	3630	3691	5430
全文PDF	3750	6908	5395	4419	4323	6475
	2020年 2月	2020年 3月	2020年 4月	2020年 5月		
書誌事項	5135	3495	11039	8396		
全文PDF	4925	3759	7073	7142		

※サマリーより月別のアクセス数を抽出（記事別、国別、ドメイン別の集計データもあり）



（５）2019 年度（令和 1 年度）事業報告

1）会誌の発行

- ・年 2 回の会誌の発行を継続し、2019 年度は、2019 年 7 月 28 日に 22 巻 1 号（原著論文 3、総説 1、事例研究 3、短報 1、レポート 1、意見 1）、2020 年 3 月 28 日に 22 巻 2 号（原著論文 1、事例研究 3、短報 2、意見 1）をそれぞれ発行した。
- ・会誌の電子情報提供は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営している科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）への掲載を 2008 年度から開始し、2019 年度も継続実施した。
会員に加えて非会員も 2 年間の非公開が廃止されたことにより、会誌発刊後 1 ヶ月半程度で閲覧が可能となる。

2）ニュースレターの発行

- ・No. 84（2019 年 5 月 27 日発行）：第 12 期役員候補募集、第 23 回広島大会開催案内、2018 年度海外学会等派遣者の選考結果報告など
- ・No. 85（2019 年 8 月 7 日発行）：第 23 回総会開催案内、第 23 回広島大会案内、第 12 期役員募集・推薦委員会報告など
- ・No. 86（2019 年 12 月 27 日発行）：第 12 期新会長挨拶、第 23 回総会報告、第 24 回札幌大会の準備状況、谷田一三先生 名誉会員に推戴
- ・No. 87（2020 年 2 月 18 日発行）：第 23 回広島大会報告、第 24 回札幌大会の開催案内、2019 年度海外学会参加報告、2020 年度海外学会等派遣員の募集、台風 19 号災害調査団の派遣に関する経過報告、連続セミナー第 8 回「未来の環境を語り・考える会」開催報告など

3）第 23 回広島大会

第 23 回広島大会は、2019 年 9 月 27 日（金）～30 日（月）の日程で、広島大学東広島キャンパスにおいて開催された。

9 月 27 日（金）～28 日（土）には、研究発表は、42 件の口頭発表、71 件のポスター発表が行われ、また 9 件の自由集会等が行われた。

9 月 29 日（日）には、公開シンポジウム「ここまで進んだ生態系観測技術の最前線」が理学研究科 E 棟 E102 講義室において開催された。

企画者の愛媛大学の渡辺幸三教授から、シンポジウムの企画の狙いとして、国内外の先端事例を共有すると共に、新たな観測技術の今後の可能性や問題点を議論することで新技術の普及を図るとの説明があり、続いて招待講演 1 として、ゲルフ大学の Mehrdad Hajibabaei 准教授から、「DNA に基づく環境の時空間的評価」というタイトルで発表が行われた。

続いて、招待講演 2 として、スイス連邦水科学技術研究所の Francesco Pomati 上席研究員から、「現場自動観測を用いた藻類ブルームの理解と予測」というタイトルで発表が行われた。

講演では、兵庫県立大学の土居秀幸准教授から「環境 DNA 検出・メタバーコーディングによる生物多様性評価手法」というタイトルで、ここ数年で開発されてきた環境 DNA に関連する様々な技術について紹介があった。

続いて、ベルリン自由大学の梁政寛 JSPS 海外特別研究員から「統計にはもう頼らない？機械学習の発展から見たデータ解析の最前線」というタイトルで、いま流行りの人工知能、“最先端の全貌と応用

生態工学で使うべきテク”として、①そもそも統計とは何が違うの？②どういう強みがあるの？③どんなツールが実践的に使えそう？について紹介いただいた。

さらに、行政の立場から、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官舟橋弥生氏から「先端技術を用いた川づくり」というタイトルで講演が行われた。

第2部のパネルディスカッションは、コーディネーターの渡辺幸三教授により進められました。パネリストには、講演者の5名に登壇いただいた。

議論の焦点として、DNA メタバーコーディングと環境 DNA の今後の技術的課題や研究開発の進め方について議論が交わされた。また、生態系予測モデルや機械学習についてどの程度の予測が可能となるかまた今後の技術的課題等について意見が出された。さらに、今後の先端技術への生態系評価業務のさらなる導入や普及に向けて何をすべきか討論された。

最終日の9月30日（月）には、広島デルタを形成する太田川をテーマに、上流部、中流部、下流部に位置づけられる温井ダム、広島西部山系砂防施設、汽水域干潟を見学した。

大会の参加者数は、研究発表 365 名、公開シンポジウム 202 名、懇親会エクスカッション 20 名であった。

大会では「ポスター発表」と「口頭発表」の両発表を対象に優秀発表賞の表彰を行った。

受賞研究発表は、以下のとおりです。

【ポスター発表賞】

＜最優秀ポスター発表賞＞

PH-2 耳川水系におけるアユの天然産卵場と人工産卵場の産卵状況について

井原高志※(西日本技術開発(株))・齋藤剛(同)・西村公美賀(九州電力(株))

＜優秀ポスター研究発表賞＞

PL-2 都市河川において河岸植生が底生動物の出水攪乱への反応に及ぼす影響

福崎健太※(愛媛大学)・上田航(同)・三宅洋(同)

PJ-2 ヨシやオギなどの草本による河川の樹林化抑制に関する研究

兼頭淳※((株)建設技術研究所/土木研究所)・森照貴(土木研究所)・大石哲也(同)・中村圭吾(同)・萱場祐一(同)

PI-5 大阪湾の直立護岸水域におけるアユ仔稚魚の出現状況と生息場の課題

中筋祐司※(京都市役所)・竹門康弘(京都大学)

PM-8 被食者としての外来魚：上位捕食者からダム生態系管理を考える

榊原貴之※(岩手大学/魚鷹研究チーム)・森航大(同)・野口将之(魚鷹研究チーム)・吉井千晶((株)建設技術研究所/魚鷹研究チーム)・東淳樹(岩手大学/魚鷹研究チーム)

PL-1 河床安定性の定性的評価による出水攪乱が平地河川の底生動物に及ぼす影響の解明

上田航※(愛媛大学)・福崎健太(同)・三宅洋(同)

PG-2 長安口ダム下流への置土が砂州の陸生節足動物に及ぼす影響

中西淳※(徳島大学)・河口洋一(同)・藪原佑樹(同)

PH-3 平面二次元河床変動解析モデルによる長良川扇状地区間のアユ産卵場適地評価

塩澤翔平※(岐阜大学)・原田守啓(同)・加藤大暉(大日コンサルタント(株))

PA-5 発信型GPSトラッカーTrackimoを用いた繁殖期におけるフクロウの行動圏把握

兒嶋ひろみ※(宇都宮大学)・守山拓弥(同)

＜優秀ポスター事例発表賞＞

PA-1 フクロウ調査におけるAIの活用に関する検討

重吉実和※(中央復建コンサルタンツ(株))・山内寛(同)・芦野洸介(同)

PL-7 岩盤河床の礫河床への復元に向けた取組みの底生動物による評価

布川雅典※(土木研究所)・渡辺恵三((株)北海道技術コンサルタント)・小玉崇(北海道空知総合振興局札幌建設管理部事業課)・土屋洋明((株)福田水文センター)・藤井和也(同)

【口頭発表賞】

＜最優秀口頭発表賞＞

OE-2 アユの産卵環境はどこまでわかったのか

藤田朝彦※((株)建設環境研究所)・加藤康充(同)・横山良太(同)

＜優秀口頭研究発表賞＞

OH-6 相補性解析を用いた石狩川旧川・湖沼群の保全優先度の設定

植村郁彦※((株)ドーコン)・小本智幸(同)・熊木朋子(北海道開発局札幌開発建設部)・根岸淳二郎(北海道大学)

OD-1 河道の平面形状が物理環境と生息場および魚類相に与える影響

大槻順朗※(土木研究所)・森照貴(同)・中村圭吾(同)・萱場祐一(同)

OG-5 イシカリミドリカワゲラ(*Alloperla ishikariana*)成虫の河川横断方向における分布

中川智裕※(北海道大学)・根岸淳二郎(同)・中村太士(同)

＜優秀口頭事例発表賞＞

OB-7 小河川におけるPITタグを用いたナマズの行動解析

森 晃※(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

OB-2 石狩川旧川群における肉食性外来魚類の分布状況と食性把握について

藤井和也※((株)福田水文センター)

「※」は発表者を示す。

4) 主催・共催・後援行事の開催

＜主催行事＞

①若手のつどい勉強会 2019 : 2019 年 4 月 19～20 日、北大工学部、(一財)北海道河川財団、豊平川

テーマ : 河川の地形から生態まで

主 催 : 応用生態工学会札幌・若手の会

②第 1 回北海道の応用生態工学 掲載論文の解説と展望その 1 : 2019 年 5 月 31 日、札幌エルザプラザ

テーマ : 「小さな自然再生」と「きっと役立つ省力化のモニタリング技術」

主 催 : 応用生態工学会札幌・会誌編集委員会

③仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト : 2019 年 8 月 31 日、仙台湾南部海岸

テーマ : 東日本大震災後後の砂浜環境について

主催 : 応用生態工学会仙台

④第 18 回北信越現地ワークショップ in 長野 : 2019 年 9 月 13～14 日、信州大学繊維学部

テーマ : 千曲川とともに暮らしてきた人々の生活

主 催 : 応用生態工学会長野

- ⑤第2回北海道の応用生態工学 全国大会の発表を札幌でもその1：2019年11月1日、北大工学部
 テーマ：「北海道の話題なのに全国大会に（道外）に行かないと聞けない、北海道で発表する機会がない」という声に応えて
 主 催：応用生態工学会札幌
- ⑥第4回北信越事例発表会 in 石川：2019年11月8日、IT ビジネスプラザ武蔵
 テーマ：生物保全に配慮した海や河川の開発事例の報告
 主 催：応用生態工学会金沢
- ⑦「氾濫原テキスト」勉強会：2019年11月12日、新川学びの森天神山交流館
 テーマ：河道内氾濫原の保全と再生～布施川を例として
 主 催：応用生態工学会富山
- ⑧第11回全国フィールドシンポジウム in 耳川：2019年11月14日～15日、日向市中央公民館、耳川
 テーマ：いい耳川をめざして！流域一体となった総合土砂管理による河川生態系の再生
 主 催：応用生態工学会福岡
- ⑨フィールドシンポジウム in 自然共生センター：2019年11月26日、自然共生センター、国営木曽
 三川公園、一宮スポーツ文化センター
 テーマ：河川における植生動態の理解と樹木管理への展望
 主 催：応用生態工学会名古屋
- ⑩地域勉強会：2019年11月29日、福井県国際交流館
 テーマ：魚道整備による地域の川づくり
 主 催：応用生態工学会福井
- ⑪連続セミナー第8回「環境の未来を考え・語る会」：2019年12月6日、(一財)水源地環境センター
 テーマ：今後の国土づくりと環境
 主 催：事務局改善WG・応用生態工学会東京
- ⑫勉強会：2019年12月10日、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」
 テーマ：生態系ネットワークと地域再生
 主 催：応用生態工学会新潟

<共催行事>

- ①第22回河川生態学術研究発表会：2019年11月7日、東京大学農学部弥生講堂・一条ホール
 共 催：河川生態学術研究会、応用生態工学会

<後援行事>

- ①令和元年度多自然型川づくり近畿地方ブロック会議：2019年10月30日、大阪合同庁舎第1号館
 主 催：国土交通省近畿地方整備局

5) 国際交流：海外学会等派遣（国際交流委員会）

2019年度海外学会等への派遣者募集は、近年、応募者が少ない状況を考慮して、従来の学会ホームページ、ニュースレター、メーリングリストに加えて学会のフェイスブックにも応募情報ページのリンクを貼るなどの対応を行って募集を行った。3月31日の募集期限までに2名の応募があった。

なお、フェイスブックのシェア件数は2件に止まった。

4月に国際交流委員会を開催し、応募内容を規定の審査基準で審査した結果、東京農工大学大学院農学府の荒田洋平氏を選考した。

派遣先は、2019 年 12 月 9～13 日にアメリカ, サンフランシスコで開催された American Geophysical Union Fall Meeting 2019。助成額は 20 万円。

6) ICLEE 状況報告

新しいホームページが開設された。

URL は <https://www.iclee.website>

新しいホームページは、

WHAT 〈ICLEE〉 理念・目的、役職員、編集委員会

JOURNAL 〈LEE〉 英文学会誌 LEE について

ICLEE CONFERENCE 国際会議

GET INVOLVED メッセージの交換

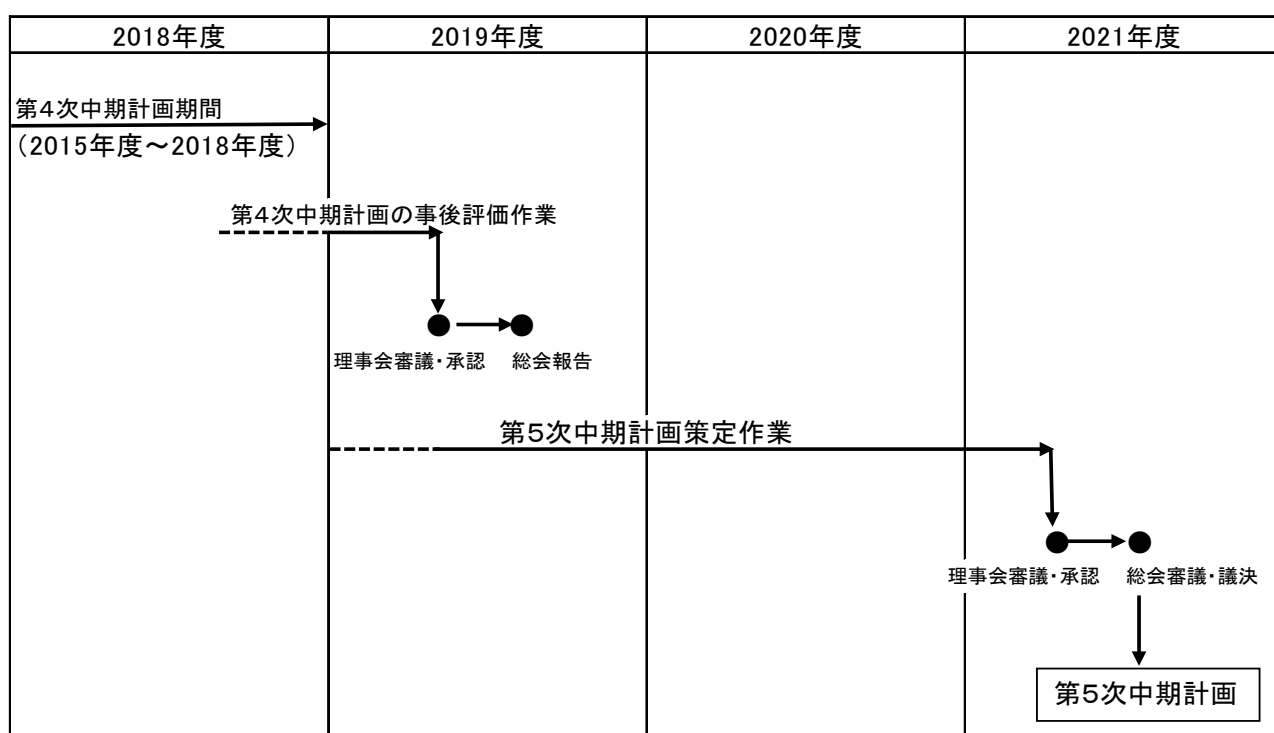
の四つから構成されている。

（６）第５次中期計画の策定延期について

中期計画については、第４次中期計画が２０１８年度で終了し、昨年度事後評価を行うとともに将来構想委員会において第５次中期計画の検討を進めてきたところであるが、新型コロナウイルスの影響により、十分な議論が進められない状況にある。

また、理事会及び幹事会も、現状において十分な議論を行える環境にはないことや、コロナ後の状況を踏まえた学会活動のあり方も課題として議論する必要があることなども考慮すると、次次中期計画の検討には時間を要するものと考えられる。

１年延期した場合、第５次中期計画の初年度を２０２１年度とし、計画策定スケジュールについては来年度前半の理事会で決定し、総会で報告することを想定している。



2 審議事項

2-1 第1号議案 2019年度（令和1年度）決算・監査報告

資料-7

（1）2019年度（令和1年度）決算報告

1. 2019年度決算は、収支差額 597,593 円の黒字となった。

この黒字決算をもたらしたのは、予算額に対して収入決算額が 220,838 円の増額となった一方、支出決算額が 376,755 円の減額となったことによる。

2. 収入決算額が 220,838 円の増額となった要因は次のとおり。

【減額となった主なもの】

費目	予算額	決算額	増減	理由
会費収入	11,488,000 円	11,029,910 円	458,090 円	会費滞納会員の退会未処理
会誌別刷り収入	610,000 円	129,600 円	480,400 円	カラー印刷の減
LEE 購読料	611,100 円	357,740 円	253,360 円	電子ジャーナル化による購読料値下げ
小計			1,191,850 円	

費目	予算額	決算額	増減	理由
大会参加費	2,400,000 円	3,029,500 円	629,500 円	参加者増
地域講座参加費	1,253,000 円	※1,410,096 円	157,096 円	参加費徴収者の増
助成金	1,070,000 円	1,627,000 円	557,000 円	各地域の獲得努力
小計			1,343,596 円	

【増額となった主なもの】

※各研究会の口座の受取利息 12 円は含んでいない。

地域講座参加費に端数が出ているのは、参加費から弁当代等差し引いた額を収入として計上処理している研究会があったことによる。

3. 支出決算額が 376,755 円の減額となった要因は次のとおり。

【減額となった主なもの】

費目	予算額	決算額	増減	理由
管理費	6,400,000 円	6,294,502 円	105,498 円	
会誌編集費	3,000,000 円	2,190,656 円	809,344 円	掲載論文数の減
会議費	1,030,000 円	914,486 円	115,514 円	メール会議の増
大会費※	3,700,000 円	3,188,898 円	511,102 円	国際交流委員会との共催による減
LEE 購読料支払	611,100 円	319,680 円	291,420 円	電子ジャーナル化による購読料値下げ
小計			1,832,878 円	

※国際交流委員会との共催となった国際シンポジウムを含む。

予算額：3,200,000 円＋500,000 円 決算額：1,767,449 円＋1,421,449 円

【増額となった主なもの】

費目	予算額	決算額	増減	理由
テキスト委員会費	100,000 円	574,988 円	474,988 円	「中小河川」テキスト打合せ旅費増
災害対応委員会費	0 円	142,724 円	142,724 円	台風 19 号災害調査団旅費
地域研究会費用	2,200,000 円	3,085,987 円	885,987 円	イベントの増
			1,503,699 円	

4. 以上の状況を概括すると、588,319 円の黒字は、大会参加費・助成金の増額、大会時の公開シンポジウムを国際交流委員会と共催したことによる経費節減、会誌編集費減等によるところが大きい。このうち、前者は関係者の努力の成果であるが、後者の会誌編集費減は掲載論文数が少なかったことに起因している。過去 4 年間（2016 年度～2019 年度）の掲載論文数（カッコ内は総ページ）は、24（275 ページ）、28（243 ページ）、19（208 ページ）、17（185 ページ）となっている。平年並みの掲載論文数であれば、2019 年度は赤字決算であったことに留意する必要がある。

そのため、会費納入率の向上に向けて会費滞納の会員に督促等の取り組みを継続して進める必要がある。

5. 次に、事業のうち、大会と地域研究会活動の収支について考察する。

（1）大会

収入		支出		収支
発表会参加費	2,053,500 円	発表会経費	786,854 円	
		国際シンポジ経費	1,427,449 円	
エクスカーション参加費	39,000 円	エクスカーション費用	169,096 円	
懇親会参加費	937,000 円	懇親会費用	805,499 円	
小計	3,029,500 円		3,188,898 円	△159,398 円
河川基金助成金	1,000,000 円			
東広島市助成金	150,000 円			
計	4,179,500 円		3,188,898 円	990,602 円

外部からの助成を加えた収支では、約 16 万円の赤字が解消され、約 99 万円の黒字となった。

第 23 回広島大会から、大会当日の受付の錯綜回避と現金収受のミスの発生抑制の観点から、大会参加費について、事前申込・事前振込に対し割引適用することとしたが、その結果は以下のとおりとなった。

	第 23 回広島大会	第 22 回東京大会
事前申込・事前（事後）振込	287 名	191 名
事前申込・当日支払	19 名	21 名
当日申込・当日支払	61 名	108 名
小計（A）	80 名	129 名
大会参加者合計（B）	367 名	320 名
当日支払割合（A）／（B）	22%	40%

割引適用なしの第 22 回東京大会と比べて、当日支払割合は約半分に減少した。

また、事前割引の適用を受けた者は以下のとおりとなった。

	割引額	適用人数	割引総額
正会員、賛助会員、非会員	1,000 円	209 名	209,000 円
学生会員、学生非会員	500 円	39 名	19,500 円
			228,500 円

発表会参加費は約 1 割 $(228,500 \div \{2,053,500 + 228,500\} \div 0.1)$ 減収となった。

(2) 地域研究会活動

収入		支出		収支
地域講座参加費	1,410,096 円	地域研究会費用	3,085,987 円	△1,675,891 円
本部助成金	600,000 円			
各地域助成金	877,000 円			
計	2,887,096 円		3,085,987 円	△198,891 円

地域イベントは、徴収する参加費とイベントに要する費用の収支は大幅な赤字となるが、本部からの助成金と各地域研究会が努力して獲得した助成金により、約 20 万円まで圧縮されている。

約 20 万の赤字は、各地域研究会の口座からの持ち出しとなっており、普及・連携委員会からは本部からの助成金の増額の要望が出されている。

2019年度正味財産増減計算書(兼収支計算書)

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

収入の部

(単位=円)

科 目	2019年度 予 算 額 (A)	2019年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A)-(B)	備 考
1. 会 費 収 入	11,488,000	11,029,910	△ 458,090	
1) 正 会 員 会 費	5,508,000	5,272,440	△ 235,560	
2) 学 生 会 員 会 費	280,000	157,800	△ 122,200	
3) 賛 助 会 員 会 費	5,700,000	5,599,670	△ 100,330	
2. 雑 収 入	610,130	130,022	△ 480,108	
1) 会 誌 別 刷 り 収 入	610,000	129,600	△ 480,400	
2) 受 取 利 息	130	62	△ 68	
3) そ の 他	0	360	360	
3. 事 業 収 入	3,759,000	4,624,396	865,396	
1) 大 会 費	2,400,000	3,029,500	629,500	
(1) 大会(研究発表会)参加費	-	2,053,500	-	
(2) エクスカーション参加費	-	39,000	-	
(3) 大会(懇親会)参加費	-	937,000	-	
2) 地 域 講 座 参 加 費	1,253,000	1,410,096	157,096	
(1) 講 座 1 参 加 費	-	379,500	-	札幌
(2) 講 座 4 参 加 費	-	365,000	-	金沢
(3) 講 座 7 参 加 費	-	54,500	-	名古屋
(4) 講 座 8 参 加 費	-	306,096	-	福岡
(4) 講 座 12 参 加 費	-	21,000	-	新潟
(5) 講 座 14 参 加 費	-	284,000	-	長野
3) 会 誌 等 販 売 収 入	106,000	184,800	78,800	
(1) 会 誌 団 体 購 読 収 入	-	150,000	-	
(2) 会 誌・テキスト等販売収入	-	24,800	-	
(3) そ の 他 事 業 収 入	-	10,000	-	
4. 英文誌関連収入	611,100	357,740	△ 253,360	
1) LEE購読料	611,100	357,740	-	
5. 助成金収入	2,080,000	2,627,000	547,000	
1) 河川基金	1,000,000	1,000,000	0	
2) 助成金	1,070,000	1,627,000	557,000	
3) 寄付金	10,000	0	△ 10,000	
当期収入合計	18,548,230	18,769,068	220,838	

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

支出の部

(単位=円)

科 目	2019年度 予算額 (A)	2019年度 実績額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 管 理 費	6,400,000	6,294,502	△ 105,498	
1) 家 賃	-	1,560,000	-	
2) 水 道 代 ・ 電 気 代	-	93,964	-	
3) リ ー ス 料 (コ ピ ー 機)	-	417,044	-	
4) 通 信 費	-	284,089	-	
(1) イ ン タ ー ネ ッ ト	-	122,375	-	
(2) 携 帯 電 話	-	21,047	-	
(3) 郵 送 ・ 宅 配 等	-	140,667	-	
5) 事 務 局 旅 費 ・ 交 通 費	-	252,204	-	
6) 文 具 消 耗 品 費	-	325,862	-	
7) 事 務 局 給 与	-	2,997,066	-	
8) 顧 問 料 (税 理 士 費 用)	-	105,840	-	
9) 支 払 手 数 料 (B i z ス テ ー シ ョ ン)	-	173,080	-	
10) 租 税 公 課	-	79,488	-	
11) 雑 費	-	5,865	-	
2. 事 業 費 用	11,387,130	11,337,665	△ 49,465	
1) 会 誌 編 集 費	3,000,000	2,190,656	△ 809,344	
(1) 会誌印刷費	-	1,724,159	-	
(2) 会誌郵送費	-	211,837	-	
(3) 編集委員会費	-	117,040	-	
(4) 編集委員会交通費	-	137,620	-	
2) 会 員 募 集 費 (チ ラ シ 等 印 刷 費)	0	0	0	
3) 会 議 費	1,030,000	914,486	△ 115,514	
(1) 総 会 費	50,000	58,536	8,536	
1) 総会資料作成費	-	58,536	-	
2) 総会その他	-	0	-	
(2) 理 事 会 費	390,000	395,096	5,096	
1) 理事会費	-	47,676	-	
2) 理事会交通費	-	347,420	-	
(3) 幹 事 会 費	590,000	460,854	△ 129,146	
1) 幹事会交通費	-	460,854	-	
4) 委 員 会 活 動 費	1,870,000	3,379,087	1,509,087	
(1) 委 員 会 関 係 費	1,670,000	3,179,087	1,509,087	
1) 普及・連携委員会費	1,000,000	964,966	△ 35,034	
<1>活動費	400,000	364,966	△ 35,034	
<2>地域イベント助成費	600,000	600,000	0	
2) 国際交流委員会費	500,000	1,421,449	921,449	
<1>活動費	0	0	0	
<2>国際シンガ経費	500,000	1,421,449	921,449	
3) 情報・サービス委員会費	10,000	38,660	28,660	
<1>活動費	0	16,460	16,460	
<2>ホームページ管理費	10,000	22,200	12,200	
4) 将来構想委員会費	50,000	0	△ 50,000	
5) 技術援助委員会費	0	0	0	
<1>活動費	0	0	0	
<2>河砂基準意見交換費	0	0	0	
6) テキスト刊行委員会費	100,000	574,988	474,988	
<1>活動費	100,000	515,148	415,148	
<2>テキスト刊行費	0	59,840	59,840	
7) 企画運営委員会費	10,000	36,300	26,300	
8) 災害対応委員会費	0	142,724	142,724	
<1>活動費	0	3,000	3,000	
<2>災害調査費	0	139,724	139,724	
(2) 海 外 派 遣 費	200,000	200,000	0	

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

支出の部

(単位=円)

科 目	2019年度 予算額 (A)	2019年度 実績額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
5) 大 会 費	3,200,000	1,767,449	△ 1,432,551	
(1) 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム	1,600,000	6,000	△ 1,594,000	
1)シンポ旅費交通費(海外)	-	0	-	
2)シンポ旅費交通費(国内)	-	0	-	
3)シンポ講師謝金(海外)	-	0	-	
4)シンポ講師謝金(国内)	-	0	-	
5)シンポ広報経費	-	6,000	-	
6)シンポ同時通訳	-	0	-	
7)シンポその他	-	0	-	
(2) 研 究 発 表 会	850,000	786,854	△ 63,146	
1)発表会会場費	-	64,800	-	
2)発表会会場備品費	-	30,222	-	
3)発表会資料作成費	-	243,000	-	
4)発表会広報経費	-	65,928	-	
5)発表会その他	-	382,904	-	
(3) エ ク ス カ ー シ ョ ン 費 用	100,000	169,096	69,096	
(4) 大 会 懇 親 会 費	650,000	805,499	155,499	
6) 地 域 研 究 会 費 用	2,200,000	3,085,987	885,987	
(1) 講 座 1 費 用	-	646,430	-	札幌
(2) 講 座 2 費 用	-	75,675	-	仙台
(3) 講 座 3 費 用	-	5,230	-	東京
(4) 講 座 4 費 用	-	613,796	-	金沢
(5) 講 座 5 費 用	-	324	-	大阪
(6) 講 座 6 費 用	-	0	-	広島
(7) 講 座 7 費 用	-	178,360	-	名古屋
(8) 講 座 8 費 用	-	762,011	-	福岡
(9) 講 座 9 費 用	-	75,350	-	福井
(10) 講 座 10 費 用	-	251,675	-	富山
(11) 講 座 11 費 用	-	0	-	松山
(12) 講 座 12 費 用	-	80,200	-	新潟
(12) 講 座 13 費 用	-	432	-	那覇
(12) 講 座 14 費 用	-	396,504	-	長野
(13) 講 座 15 費 用	-	0	-	岡山
7) Hp 整 備 費 、 そ の 他 費 用	87,130	0	△ 87,130	
3. 英 文 誌 関 連 費	761,100	469,680	△ 291,420	
1) LEE 購 読 料 支 払 い	611,100	319,680	△ 291,420	
2) ICLEE 事 務 局 維 持 費	150,000	150,000	0	
4. そ の 他 の 支 出	0	529,633	529,633	
1) 前 払 費 用	0	477,974	477,974	
2) 源 泉 所 得 税 預 り 金	0	17,969	17,969	
3) 返 金 等	0	33,690	33,690	
当 期 支 出 合 計	18,548,230	18,631,480	83,250	
当 期 収 支 差 額	0	137,588	137,588	
経 理 区 分 振 替 額			-	
当 期 正 味 財 産 増 減 額	-	137,588	-	
前 期 繰 越 正 味 財 産 額	-	26,949,610	-	
次 期 繰 越 正 味 財 産 額	-	27,547,203	-	

貸 借 対 照 表

(一般・収益部門総括表)

2020年3月31日現在

(単位＝円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現 金	122,710	預 り 金	17,969
普 通 預 金	8,799,303	負 債 合 計	17,969
振 替 貯 金	8,823,734		
定 額 預 金	9,025,011		
未 収 入 金	0		
前 払 費 用	477,974		
【固定資産】			
災 害 調 査 引 当 資 産	0		
電 話 加 入 権	76,440		
敷 金	240,000	正味財産の部	
		【正味財産】	
		正 味 財 産	27,547,203
		(うち正味財産増加額)	597,593
		正 味 財 産 の 部 合 計	27,547,203
資 産 合 計	27,565,172	負 債 及 び 財 産 合 計	27,565,172

財 産 目 録

2020年3月31日現在

資産の部

(単位＝円)

科 目	摘 要	金 額
現 金		122,710
普通預金	三菱東京UFJ銀行 麹町中央支店	6,941,187
同	北洋銀行 北七条支店	151,660
同	三菱東京UFJ銀行 大宮支店	76,223
同	北國銀行 金沢中央支店	389,795
同	みずほ銀行 天満橋支店	429,126
同	広島銀行 大河支店	2,533
同	三菱東京UFJ銀行 柳橋支店	282,301
同	福岡銀行 渡辺通支店	421,927
同	伊予銀行	24,665
同	沖縄海邦銀行	49,627
同	松本信用金庫	29,299
同	みずほ銀行 岡山支店	960
	通常預金計	8,799,303
振替貯金	(事務局) 00140-7-404275	6,386,069
同	(大会口座) 10000-29124981	298,795
同	(災害口座) 11380-03835091	860,276
同	(仙台) 02280-8-92496	142,469
同	(福井) 00790-1-100369	645,916
同	(富山) 13270-17520631	163,233
同	北信越 富山口座に移し替え	0
同	(新潟) 11270-14664511	326,976
	郵便貯金計	8,823,734
定額預金	¥5,000,000円×1口+¥2,000,000×2口	9,000,000
定額預金利息	(事務局) 89535861	25,011
	定額預金計	9,025,011
前払費用	来年度大会会場費、大会事務用品移送費	477,974
電話加入権	事務局電話	76,440
敷 金	三輪 雅男(麹町ロイヤルビル405)	240,000
資 産 合 計		27,565,172

負債の部

科 目	摘 要	金 額
預 り 金	源泉所得税	17,969
負 債 合 計		17,969
差 引 正 味 財 産		27,547,203

地域研究会収支

2019 年度地域研究会収支

単位：円

	2018 年度からの繰越金	2019 年度決算					
	通帳	※※※収入	本部助成金	収入合計	支出合計	収支差額	2020 年度への繰越額
	(A)	(B)	(C)	(D=B+C)	(E)	(F=D-E)	(G=A-F)
札幌 1	257,863	499,501	50,000	549,501	※※646,430	△ 96,929	160,934
仙台 2	68,144	100,000	50,000	150,000	75,675	74,325	142,469
東京 3	31,453	0	50,000	50,000	5,230	44,770	76,223
金沢 4	388,589	615,002	0	615,002	613,796	1,206	389,795
大阪 5	379,448	2	50,000	50,002	324	49,678	429,126
広島 6	2,533	0	0	0	0	0	2,533
名古屋 7	356,159	54,502	50,000	104,502	178,360	△ 73,858	282,301
福岡 8	535,839	548,099	100,000	648,099	762,011	△ 113,912	421,927
福井 9	626,266	45,000	50,000	95,000	75,350	19,650	645,916
※		100,000					
富山 10	244,908	20,000	50,000	170,000	251,675	△ 81,675	163,233
松山 11	24,665	0	0	0	0	0	24,665
新潟 12	336,174	21,002	50,000	71,002	80,200	△ 9,198	326,976
那覇 13	50,059	0	0	0	432	△ 432	49,627
長野 14	103,931	284,000	100,000	384,000	396,504	△ 12,504	91,427
岡山 15	960	0	0	0	0	0	960
地域計	3,406,991	2,287,108	600,000	2,887,108	3,085,987	△ 198,879	3,208,112

※2019/3/24 の行事開催となったため決算が年度をまたぎ、上段はそのうちの 2018 年度行事分。

※※第 24 回札幌大会の前払費用の立替分 9,274 円を除く。2020 年度に大会口座から札幌口座に返金。

(2) 2019 年度（令和元年度）監査報告

監査報告書

規約第 44 条 4 項に基づき、2019 年度（令和元年度）決算報告書において、関係帳簿および証拠書類と対照監査した結果、正確であることを認めます。

2020 年 7 月 3 日

監事

成田 賢 

監事

渡辺 綱男 

（参考）2020 年度（令和 2 年度）事業実施状況・収支見込み

2020 年度（令和 2 年度）の事業実施状況及び 2020 年度（令和 2 年度）予算に対する現時点の収支見込み（変更要素）について、以下に示す

1）2020 年度（令和 2 年度）事業実施状況

i. 会誌の発行

23 巻 1 号（2020 年 9 月発行予定）

23 号 2 号（2021 年 2 月発行予定）

ii. ニュースレターの発行

No. 88（2020 年 5 月 21 日発行）：第 24 回札幌大会延期の決定及び ELR2021 大会延期の方針について、2020 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告、第 12 期各委員会委員決まる、理事会・幹事会報告など

No. 89（2020 年 9 月発行予定）：第 24 回総会案内、2020 年度研究発表会 Web 開催のお知らせ、行事開催案内、理事会・幹事会報告など

No. 90（2020 年 12 月発行予定）：第 24 回総会報告、2020 年度研究発表会 Web 開催の報告、行事開催案内、行事開催報告、理事会・幹事会報告など

No. 91（2021 年 2 月発行予定）：2019 年台風 19 号災害調査団報告、2021 年度海外学会等派遣者の募集、行事開催案内、行事開催報告、理事会・幹事会報告など

iii. 第 23 回札幌大会

1 年延期

iv. 主催・共催・後援行事

<主催行事>

①第 12 回全国フィールドシンポジウム in 愛知川：中止

②応用生態工学会札幌 「氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会（対面とオンラインの併用）

: 2020 年 12 月 10 日

<共催行事>

①第 23 回河川生態学術研究発表会：未定

共催：河川生態学術研究会、応用生態工学会

<後援行事>

①令和 2 年度 多自然川づくり近畿地方ブロック担当学会（Web 開催）：2020 年 10 月 30 日

主催：国土交通省近畿地方整備局

v. 国際交流：海外学会等派遣（国際交流委員会）

2020 年度海外学会等への派遣者募集には、期間内に応募がなく、かつ、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の状況を考慮し、募集期間の延長は行わないこととし、派遣中止を決定した。

vi. 委員会活動

会誌編集委員会

編集幹事会 23 巻 2 号以降の特集企画、投稿促進策の検討他（Web 開催）

: 2020 年 6 月 23 日 13:30～15:30

編集幹事会 会誌投稿規程の見直し（Web 開催）：2020 年 8 月 6 日 15:00～

情報・サービス委員会

メーリングリスト名称の変更（メール会議）：2020年5月28日～6月5日

Web 会議システム導入方針（メール会議）：2020年6月18日～25日

Web 会議システム機材の導入（メール会議）：2020年8月18日～25日

国際交流委員会

2020年度海外学会等への派遣者募集の中止（メール会議）：2020年4月3日～6日

2021年度国際シンポジウムの企画、活動報告他（Web開催）：2020年9月14日

テキスト刊行委員会

氾濫原テキストの活用促進、次期テキストの刊行他（Web開催）

：2020年9月25日 10:00～11:30

2）2020年度（令和2年度）収支見込み

2019年9月29日の第23回総会において決定した2020年度予算について、現時点での会務進行状況を加味して修正を行った。新型コロナウイルス感染拡大による学会活動の制約が大きな要因となった。収入と支出のそれぞれについて、修正を行った主な内容は次のとおりである。

○収入

- ① 会費収入の算定基礎となる会員数について、2020年7月10日時点の会員数に修正した。
- ② 新型コロナウイルス感染拡大による大会延期を含めた学会活動の制約を考慮し、事業収入については、大会費はゼロ、地域講座参加費は当初予算額の50%、助成金収入については、助成金は当初予算額の50%にそれぞれ修正した。
- ③ 英文誌関連収入のLEE購読料について、2019年10月1日からの消費税率の改定に伴う電子体、冊子体の購読料及び2020年7月10日時点の購読者数に修正した。

以上の見直しを行った結果、収入は当初予算に対して350万円弱の減額となった。

○支出

- ① 事業費の会議費は、移動を伴い密となる従来の会議は取り止めメール会議等に変更することにし、総会費はゼロ、理事会費・幹事会費はそれぞれ当初予算額の3回分を1回分に修正した。
- ② 事業費の委員会活動費は、第12回全国フィールドシンポジウム in 愛知川を中止したことにより普及・連携委員会の活動費はゼロに、イベント助成費は予算額の50%に修正、Web会議の実施検討のための旅費を情報サービス委員会活動費に新たに計上、第5次中期計画策定のための将来構想委員会費は当初予算額の50%に修正、中小河川テキストの刊行に向けたテキスト刊行委員会活動費は当初予算額の50%に修正、地域研究会が開催する氾濫原テキスト勉強会の講師派遣のためのテキスト刊行費として2019年度決算額と同程度額を新たに計上、災害対応委員会費の災害調査費に2019年台風19号災害調査費の繰越額を新たに計上、海外派遣費は派遣中止によりゼロに修正した。
- ③ 事業費の大会費は、1年間延期に伴い、ゼロに修正した。
- ④ 事業費の地域研究会費用は、当初予算額の50%に修正した。
- ⑤ 英文誌関連費のLEE購読料支払いについて、収入額と同額に修正した。
- ⑥ HP整備費、その他費用では、ホームページの整備費用のほか、事業費の中で他項目以外に突発的に発生する費用（ただし、2018年度から「災害調査引当資産」として予算化された災害調査団派遣の災害調査に係る費用を除く）に対応する予算科目として、予備的経費を計上することとしているが、当期収支差額が0円となる範囲で、可能な金額を確保した。なお、準備を進めている2020年度Web研究発表会や今後の学会活動の各種Web会議に対応するため、情報サービス委員会から提案のあった諸費用については、この費目から支出することとしたい。

以上の見直しを行った結果、支出はHP整備費、その他費用を除き、当初予算に対して420万円弱の減額となった。

資料－10

2－2 第2号議案 災害調査引当資産の補充

○災害調査引当資産の全額取り崩し

2019年10月に発生した台風19号の豪雨災害に関して、第102回理事会（メール会議）（2019年11月8日～15日開催）において調査団派遣が承認され、第103回理事会（メール会議）（2019年12月24日～27日開催）において災害調査引当資産100万円を全額取り崩して災害調査費用に充当することが承認された。

○災害調査引当資産の補充

次の災害調査に備えるため、災害調査引当資産に100万円を補充する。

2-3 2021 年度（令和3年度）事業計画案

2021 年度（令和3年度）は、2021 年 4 月 1 日からスタートする。2021 年度の事業計画について、以下に示す。

1. 会誌の発行

24 巻 1 号（2021 年 7 月発行予定）

24 巻 2 号（2022 年 1 月発行予定）

2. ニュースレターの発行

No. 92（2021 年 5 月発行予定）：次期(13 期)役員候補の募集、第 24 回大会案内、2021 年度海外学会等派遣者の選考結果報告、行事開催案内、理事会報告等

No. 93（2021 年 8 月発行予定）：第 24 回大会プログラム案内、第 25 回総会案内、次期役員募集・推薦委員会報告、行事開催案内、理事会報告等

No. 94（2021 年 12 月発行予定）：第 13 期新会長挨拶、総会・大会報告、行事開催案内、理事会報告等

No. 95（2022 年 2 月発行予定）：2022 年度学会等派遣者募集、行事開催案内、理事会報告等

3. ワークショップ等の開催

各委員会及び地域研究会の積極的な活動により、普及及び研修の企画を立ててワークショップ等を実施する。

また、共催・後援に関しては、応用生態工学研究及び普及に関する行事について、積極的に企画・支援する。

・主催・共催行事

①第 24 回全国大会（開催地：札幌）

② 第 13 回応用生態工学会全国フィールドシンポジウム（開催地：未定）

③ 応用生態工学会 札幌：（未定）

④ 応用生態工学会 仙台：（未定）

⑤ 応用生態工学会 東京：（未定）

⑥ 応用生態工学会 新潟：（未定）

⑦ 応用生態工学会 長野：（未定）

⑧ 応用生態工学会 富山：（未定）

⑩ 応用生態工学会 金沢：（未定）

⑪ 応用生態工学会 名古屋：（未定）

⑫ 応用生態工学会 大阪：（未定）

⑬ 応用生態工学会 広島：（未定）

⑭ 応用生態工学会 松山：（未定）

⑮ 応用生態工学会 福岡：（未定）

⑯ 応用生態工学会 那覇：（未定）

⑰ 応用生態工学会 岡山：（未定）

・後援行事

未定

2-4 2021 年度（令和 3 年度）予算案

2021 年度予算案は、引き続き収支を一致させる均衡予算とすることを基本に作成した。
収入と支出のそれぞれについて、予算案の考え方は次のとおりである。

○収入

- ① 会費収入は、2020 年 7 月 10 日時点の会員数に基づいて計上した。
- ② 次の科目については、それぞれ 2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
 - ・雑収入の会誌別刷り収入
 - ・事業収入の大会費、地域講座参加費、会誌等販売収入
 - ・助成金収入の助成金、寄付金
- ③ 英文誌 LEE 購読料収入は、2020 年 7 月 10 日時点の電子体、冊子体の購読者数、購読料に基づいて計上した。
- ④ 助成金収入の河川基金については、2020 年度助成金を繰り越すため未計上とした。

○支出

- ① 次の科目については、それぞれ 2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
 - ・管理費
 - ・事業費の会誌編集費、会議費、大会費
- ② 委員会活動費は、次のとおりとした。
 - ・普及・連携委員会費は、活動費、地域イベント助成費ともに、2020 年度予算と同額を計上した。
 - ・国際交流委員会費は、国際シンポジウムの開催年にあたるため、活動費は 2019 年度予算と同額を計上した。国際シンポ経費は、単独行事・河川基金助成無しの開催となった 2013 年度・2015 年度決算の平均額を計上した。
 - ・情報サービス委員会費では、活動費、ホームページ管理費ともに 2018 年度・2019 年度決算の平均額を計上した。
 - ・将来構想委員会費は、第 5 次中期計画作成年を考慮して、2020 年度予算額と同額を計上した。
 - ・技術援助委員会費は、近年の実績を考慮してゼロ計上とした。
 - ・テキスト刊行委員会費は、「中小河川」テキスト刊行に向けた会議費用を活動費に、地域研究会が開催する「河道内氾濫原の保全と再生」テキスト勉強会の講師派遣費用をテキスト刊行費に、それぞれ必要額を計上した。
 - ・災害対応委員会費は、近年の災害頻発の状況を考慮して調査団派遣の方針を検討する会議費を活動費に計上した。
 - ・海外派遣費は、2020 年度予算額と同額を計上した。
- ⑤ 地域研究会費用は、2017 年度・2018 年度決算の平均額を計上した。
- ⑥ HP 整備費、その他費用では、ホームページの整備費用のほか、事業費の中で他項目以外に突発的に発生する費用（ただし、災害調査の費用を除く）に対応する予算科目として、予備的経費を計上することとして、当期収支差額が 0 円となる範囲で、可能な金額を計上した。
- ⑧ 英文誌関連費の LEE 購読料支払いは、収入額と同額とした。ICLEE 事務局維持費は、必要額を計上した。

以上を設定した結果、2021 年度予算案は、収入、支出ともに 18,074,460 円、収支差額 0 円の均衡予算となっている。

科 目	2021年度		2020年度		2019年度	2018年度
	予算(案)	設定根拠	予算	執行見込額	決算	決算
収 入	18,074,460		18,315,810	14,834,530	18,769,068	18,896,314
会費収入	11,670,000		11,656,000	11,670,000	11,029,910	11,522,474
正会員会費	5,106,000	851人×6,000	5,238,000	5,106,000	5,272,440	5,366,398
学生会員会費	164,000	82人×2,000	218,000	164,000	157,800	156,400
賛助会員会費	6,400,000	64口×100,000	6,200,000	6,400,000	5,599,670	5,999,676
雑収入	490,060		730,130	730,130	130,022	890,221
会誌別刷り収入	490,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	730,000	730,000	129,600	860,436
受取利息	60	2018・2019年度決算の平均額を計上	130	130	62	69
その他	0		0	0	360	29,716
事業収入	4,180,000		3,580,000	600,000	4,624,396	3,743,100
大会費	2,850,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	2,500,000	0	3,029,500	2,671,000
大会(研究発表会)参加費				0	2,053,500	2,024,000
エクスカージョン参加費				0	39,000	27,000
大会(懇親会)参加費				0	937,000	620,000
地域講座参加費	1,160,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	930,000	450,000	1,410,096	912,100
会誌等販売収入	170,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	150,000	150,000	184,800	160,000
英文誌関連収入	334,400		319,680	334,400	357,740	495,810
LEE購読料	334,400	72人×4,400+2人×8,800	319,680	334,400	357,740	495,810
LEE広告掲載収入	0		0	0	0	0
助成金収入	1,400,000		2,030,000	1,500,000	2,627,000	2,244,709
河川基金	0	2020年度分を繰り越すため未計上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
助成金	1,400,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	1,030,000	500,000	1,627,000	1,244,709
寄付金	0	2018・2019年度決算の平均額を計上	0	0	0	0
支 出	18,074,460		18,315,810	14,834,530	18,631,480	17,240,823
管理費	6,400,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	6,600,000	6,600,000	6,294,502	6,387,076
事業費	11,190,060		11,246,130	7,750,130	11,337,665	9,969,403
会誌編集費	2,400,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	2,900,000	2,900,000	2,190,656	2,676,258
ニュースレター発行費	0		0	0	0	0
会員募集費	0		0	0	0	0
会議費	930,000		1,020,000	320,000	914,486	939,001
総会費	50,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	50,000	0	58,536	39,403
理事会費	440,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	460,000	150,000	395,096	484,396
幹事会費	440,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	510,000	170,000	460,854	415,202
委員会活動費	2,310,000		1,830,000	1,683,276	3,379,087	1,197,729
委員会関係費	2,110,000		1,630,000	1,683,276	3,179,087	997,729
普及・連携委員会費	1,000,000		1,000,000	350,000	964,966	977,129
活動費	300,000	2020年度予算額と同額を計上	300,000	0	364,966	277,129
地域イベント助成費	700,000	2020年度予算額と同額を計上	700,000	350,000	600,000	700,000
国際交流委員会費	600,000		100,000	100,000	1,421,449	0
活動費	100,000	2019年度予算と同額を計上	100,000	100,000	0	0
国際シンボ経費	500,000	2013・2015年度決算の平均額を計上	0	0	1,421,449	0
情報サービス委員会費	20,000		20,000	53,000	38,660	20,600
活動費	0		0	33,000	16,460	0
ホームページ管理費	20,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	20,000	20,000	22,200	20,600
将来構想委員会費	100,000	第5次中期計画策定会議旅費を計上	100,000	50,000	0	0
技術援助委員会費	0		0	0	0	0
活動費	0	2018・2019年度決算の平均額を計上	0	0	0	0
河砂基準意見交換費	0	2018・2019年度決算の平均額を計上	0	0	0	0
テキスト刊行委員会費	280,000		400,000	260,000	574,988	0
活動費	100,000	中小河川テキスト刊行に係る旅費	400,000	200,000	515,148	0
テキスト刊行費	180,000	テキスト勉強会講師派遣旅費(3回分)	0	60,000	59,840	0
企画運営委員会費	10,000		10,000	10,000	36,300	0
災害対応委員会費	100,000		0	860,276	142,724	0
活動費	100,000	調査団派遣の検討会旅費等	0	0	3,000	0
災害調査費	0		0	860,276	139,724	0
海外派遣費	200,000	2020年度分を繰り入れ	200,000	0	200,000	200,000
大会費	3,200,000	2018・2019年度決算の平均額を計上	3,200,000	0	1,767,449	3,187,001
公開シンポジウム				0	6,000	1,299,193
研究発表会				0	786,854	1,284,757
エクスカージョン				0	169,096	73,180
大会懇親会費				0	805,499	529,871
地域研究会費用	1,800,000	2017・2018年度決算の平均額を計上	1,800,000	900,000	3,085,987	1,839,799
HP整備費、その他費用	550,060		496,130	1,946,854	0	129,615
英文誌関連費	484,400		469,680	484,400	469,680	761,100
LEE購読料支払い	334,400	収入額と同額を計上	319,680	334,400	319,680	611,100
ICLEE事務局維持費	150,000	平年必要額	150,000	150,000	150,000	150,000
その他の支出	0		0	0	529,633	123,244
前払費用	0		0	0	477,974	
源泉所得税預り金	0		0	0	17,969	0
返金等	0		0	0	33,690	123,244
当期収支差額	0		0	0	137,588	1,655,491

《添付資料》

応用生態工学会 役員名簿（第 12 期）

(2019 年 9 月 24 日選出)

(所属及び役職は 2020 年 8 月 1 日現在)

会 長	甲村 謙友	一般財団法人国土技術研究センター理事長
副 会 長	浅枝 隆	埼玉大学名誉教授
	占部城太郎	東北大学大学院生命科学研究科教授
	高村 典子	国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター客員研究員
理 事	浅見 和弘	応用地質株式会社技術本部技師長室技師長
	東 信行	弘前大学農学生命科学部教授
	池内 幸司	東京大学大学院工学系研究科教授
	久保田 勝	東北電力株式会社顧問
	佐川 志朗	兵庫県立大学大学院資源マネジメント研究科教授
	島谷 幸宏	九州大学大学院工学研究院教授
	杉尾 哲	宮崎大学名誉教授
	関根 秀明	株式会社建設技術研究所東京本社環境部長
	竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター准教授
	中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授
	西 浩司	いであ株式会社 国土環境研究所環境技術部技師長
	藤田 乾一	株式会社大林組土木本部顧問
	藤田 光一	公益財団法人河川財団総合研究所所長
	益岡 卓史	株式会社建設環境研究所大阪支社取締役支社長
	武藤 裕則	徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授
幹 事 長	北村 匡	共和コンクリート工業株式会社取締役副社長
副幹事長	吉村 千洋	東京工業大学環境・社会理工学院准教授
幹 事	五十嵐美穂	日本工営株式会社基盤技術事業部環境部課長
	石澤 伸彰	応用地質株式会社地球環境事業部自然環境部部長
	上野 裕介	石川県立大学生物資源環境学部准教授
	笠原 玉青	九州大学大学院農学研究院准教授
	片野 泉	奈良女子大学大学院自然科学系准教授
	久加 朋子	北海道大学大学院工学研究院特任准教授
	佐藤 高広	株式会社復建技術コンサルタント都市・環境部副部長
	傳田 正利	国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター主任研究員
	永山 滋也	岐阜大学流域圏科学研究センター研究員
	西廣 淳	国立研究開発法人国立環境研究所気候変動適応センター室長
	波多野真樹	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官
	柳川 晃	独立行政法人水資源機構理事
	山田 浩之	北海道大学大学院農学研究院講師
	渡辺 敏	株式会社ウエスコ業務推進本部企画開発室室長
監 事	成田 賢	応用地質株式会社代表取締役社長
	渡辺 綱男	一般財団法人自然環境研究センター上級研究員

応用生態工学会規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、「応用生態工学会」と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室に置く。

第2章 目的・研究活動

(目 的)

第3条 本会は、「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を共通の目標に、生態学と土木工学の基礎知識および実際の問題についての研究成果をもとに、両分野の関係者が共同して、それらの境界領域に新しい理論・知識・技術体系である「応用生態工学」を発展・展開させることを目的とする。

(研究活動)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の活動を行う。

- 1 応用生態工学に関する調査・研究活動
- 2 応用生態工学に関する学術講演会、研究会、シンポジウム、講習会、現地見学会
- 3 応用生態工学に関する国内外の調査・研究活動、会議に関する情報の収集と伝達
- 4 応用生態工学に関する調査・研究活動に関する技術援助
- 5 応用生態工学に関する国際的学術交流
- 6 応用生態工学に関する受託事業
- 7 会誌の発行
- 8 その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 正会員 本会の目的に賛同する個人
- 2 学生会員 本会の目的に賛同する学生
- 3 賛助会員 本会の目的事業を賛助する個人並びに法人、またはその他団体
- 4 名誉会員 本会並びに応用生態工学の発展に大きな功績のあった個人のうちから、理事会の推薦により、総会において決定される。

(入 会)

第6条 会員になろうとするものは、所定の入会手続きを行わなければならない。

(会 費)

第7条 会員は細則の定めるところにより会費を納入しなければならない。

- 2 納入した会費は理由を問わず返還しない。

(退 会)

第8条 会員は、退会届を提出することにより退会することができる。

(資格の喪失)

第9条 会員は、次の理由によりその資格を失う。

- 1 会費を継続して2年以上滞納したとき
- 2 本会の名誉を傷つけたとき、または本会の目的に反する行為があったとき

第4章 役員

(役員)

第10条 本会に役員をおく。

会 長	1 名
副会長	3 名以内
理 事	15 名以内
幹事長	1 名
幹 事	15 名以内
監 事	2 名

(会長及び副会長)

第11条 会長及び副会長は総会において選出される。

- 2 会長及び副会長の任期は選出されてから、次の改選期までとする。ただし、それぞれについては、再任は連続二期までとする。
- 3 会長及び副会長の改選は2年毎に行う。
- 4 会長は本会を代表してその会務を総括する。
- 5 副会長は会長を補佐し、会長に事故のある時はあらかじめ会長が指名した順によりその職務を代行する。

(理 事)

第12条 理事は正会員の中から総会において選出される。

- 2 理事の任期は選出されてから、次の改選期までとする。ただし、再任は連続二期までとする。
- 3 理事の改選は2年ごとに行う。
- 4 理事は理事会を構成し、会務執行のために必要な事項を議決する。

(幹 事)

第13条 幹事長は理事会の推薦により総会において正会員の中から選出される。幹事は理事会において正会員の中から選出される。

- 2 幹事長と幹事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任はそれぞれについて連続二期までとする。
- 3 幹事長と幹事の改選は2年毎に行う。
- 4 幹事長と幹事は幹事会を構成し、会務執行のために必要な事項を検討する。
- 5 副幹事長は幹事会の推薦により、会長が任命する。

(監 事)

第14条 監事は総会において選出される。

- 2 監事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任は妨げない。

- 3 監事の改選は2年毎に行う。
- 4 監事は本会の会計および会務執行の状況を監査する。

第5章 会 議

(総 会)

第15条 総会は正会員により構成され、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び事業報告
 - (2) 予算、決算
 - (3) 役員の選出
 - (4) 規約の改正
 - (5) その他理事会で必要と認めた事項
- 2 通常総会は毎年1回、臨時総会は理事会が必要と認めたときに会長が召集する。なお、正会員は、正会員の10分の1が連名し、議事を明記して会長に臨時総会の召集を申し出ることができる。この場合、会長はその開催について理事会に諮るものとする。
 - 3 総会の議長は総会において正会員の中から選出する。
 - 4 総会は正会員の1/5の出席によって成立する。
 - 5 総会における正会員の議決権は各一個とし、議決は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
 - 6 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。書面により表決した会員は総会に出席したものとみなす。

(理事会)

第16条 理事会は会長、副会長、理事によって構成され、本会の基本方針の策定および運営に必要な事項を審議する。

- 2 理事会は会長または理事の三分の一以上が必要と認めたときに開くことができる。
- 3 理事会の議長は会長とする。
- 4 理事会の成立には理事現在数の過半数の出席者を必要とする。ただし、当該事項につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 理事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
- 6 幹事長は理事会に出席し意見を述べることができる。
- 7 各委員会の委員長は、必要に応じて理事会に出席することができる。

(幹事会)

第17条 幹事会は幹事長、幹事によって構成され、総会の決定した基本方針および理事会の審議決定に基づき本会の運営を推進する。

- 2 幹事会は幹事長がこれを召集する。
- 3 幹事会の議長は幹事長とする。
- 4 幹事会の成立には幹事現在数の過半数の出席を必要とする。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 幹事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定す

る。

6 各委員会の委員長は、幹事会に出席し意見を述べることができる。

(委員会)

第 18 条 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。

2 委員会の委員は会長がこれを委嘱する。

3 委員の任期は2年を原則とし、4月1日に始まり翌々年の3月31日に終わる。ただし、再任は妨げないものとする。

(分科会)

第 19 条 本会にはその目的達成のため、理事会の議決を経て、各種の分科会を設けることができる。分科会の運営に関しては別に定めるところによる。

第6章 その他

(経費および会計)

第 20 条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌3月31日に終わる。

3 本会の会計処理は事務局がこれにあたり理事会に報告する。

4 理事会は、年度終了後、決算報告を監事の意見を付して総会に提出し承認を受けなければならない。

(規約の改正)

第 21 条 この規約を改正しようとするときは、総会の議決によらなければならない。

(付 則)

1. 発足時の幹事については、規約13条に係わらず、総会の決議を経て正会員の中から選出する。

2. 本規約は、平成9年10月15日より施行する。

3. 本規約は、平成11年9月18日改正し施行する。

4. 本規約は、平成13年9月29日改正し施行する。

5. 本規約は、平成14年10月5日改正し施行する。

6. 本規約は、平成16年10月1日改正し施行する。

7. 本規約は、平成17年9月30日改正し施行する。

8. 本規約は、平成18年9月30日改正し施行する。

9. 本規約は、平成19年9月16日改正し施行する。

10. 本規約は、平成20年9月21日改正し施行する。

11. 本規約は、平成22年9月24日改正し施行する。

12. 本規約は、平成24年9月9日改正し施行する。

13. 本規約は、平成27年4月1日改正し施行する。

14. 本規約は、平成30年9月23日改正し施行する。

規約細則

(細 則)

第 1 条 本会の運営は、応用生態工学会規約（以下「規約」という。）および本細則による。

(入 会)

第 2 条 会員になるには所定の入会申込書記入要領により必要事項を記入し、会費を添えて事務局へ提出するものとする。

(会費納付)

第 3 条 会費は前納とする。ただし、特別の理由があるときには、6 ヶ月ずつ年 2 回に分納することができる。

(会 費)

第 4 条 本会の会費については、平成 23 年度以降次の通りとする。ただし、正会員が当該年度全国大会後に入会する場合は当該年度年会費を半額とする。また、学生会員が卒業又は修了後、正会員として会員を継続した場合の最初の 1 年は、学生会員の年額とする。

- | | | | |
|---|--------|----------|------------------|
| 1 | 正会員 | 年額 | 6,000 円 |
| 2 | 学生会員 | 年額 | 2,000 円 |
| 3 | 賛助会員 | 年額 | 100,000 円（1 口以上） |
| 4 | 名誉会員は、 | 会費を免除する。 | |

(役員を選出)

第 5 条 規約第 11 条第 1 項、第 12 条第 1 項および第 14 条第 1 項に規定する会長、副会長、理事および監事の選出にあたっては、別に定める次期役員募集・推薦委員会規程に基づいて次期役員募集・推薦委員会を設置し、立候補者の募集、候補者の推薦を行うものとする。

(事務局体制)

第 6 条 事務局には、理事会の承認のもとに事務局長 1 名をおく。また、事務局長を補佐する事務局次長をおくことができる。

- 2 理事会の承認のもとに、地域の研究会をおくことができる。各研究会には、連絡責任者をおくものとする。
- 3 研究会の名称は、「応用生態工学会”地域名”」とする

(細則の改正)

第 7 条 本細則を改正しようとするときは、理事会の決議によらなければならない。

(付 則)

本細則は、平成 9 年 10 月 15 日より施行する。

本細則は、平成 11 年 6 月 3 日改正し施行する。

本細則は、平成 12 年 10 月 7 日改正し施行する。

本細則は、平成 15 年 6 月 14 日改正し施行する。

本細則は、平成 15 年 9 月 18 日改正し施行する。

本細則は、平成 23 年 2 月 4 日改正し施行する。

本細則は、平成 23 年 8 月 23 日改正し施行する。

本細則は、平成 27 年 6 月 18 日改正し施行する。

本細則は、平成 30 年 6 月 19 日改正し施行する。